2010 年 5 月 20 日

BEPPU PROJECT 2010

アート・ダンス・建築・まち　Art, Dance, Architecture and the City

＜事業報告書＞

NPO 法人 BEPPU PROJECT

〒874-0918　大分県別府市汐見町 9-1 観光港第 3 埠頭ターミナル 2F　みなとパレット

tel：0977-22-3560／fax：0977-75-7012／info@beppuproject.com／http://www.beppuproject.com

BEPPU PROJECT 2010　アート、ダンス、建築、まち
事業報告書

第１章　はじめに　3p.

第２章　開催概要　4p.

（１）各部門内容

（２）目的

（３）クレジット

第３章　開催記録　6p.

（１）動員数・経済波及効果・広告換算

（２）各企画の記録

２－１アート

１．趣旨・目的・概要

２．制作記録

３．成果と今後の課題

２－２ダンス

１．趣旨・目的・概要

２．制作記録

３．成果と今後の課題

２－３建築

１．趣旨・目的・概要

２．制作記録

３．成果と今後の課題

２－４講演会・トーク

１．記念講演会

２．九州アートネットワーク車座会議

２－５そのほか

（３）BP の取り組み

第４章　運営面の検証　20p.

（１）組織

（２）広報

（３）ボランティア・マネジメント

３－１参加者

３－２成果と課題

３－３ボランティア・スタッフの声

（４）財政

第５章　アンケート　26p.

（１）来場者

（２）地域の方々とアート従事者

（３）行政

第６章　開催による評価　33p.

（１）成果

（２）今後の課題

第７章　総括：今後に向けて　36p.

第 1 章　はじめに

別府市では、2005 年から BEPPU PROJECT を中心に、文化庁の委嘱事業を始めこれまで数多くの文化事業が展開されてきた。

特に、別府市中心市街地の空き店舗をリノベーションし文化施設としてコンバージョンする platform 事業においては、計画者（BEPPU PROJECT 代表理事　山出淳也）が平成 20 年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞（芸術振興部門）を受賞し、また設計者（塩塚アトリエ）がデザイン賞（JCD デザインアワード 2009 銀賞）を受賞するなど、全国的にも注目を集めている。

さらに、今年度開催した別府現代芸術フェスティバル 2009「混浴温泉世界」（主催：別府市、別府現代芸術フェスティバル 2009 実行委員会、以下「混浴温泉世界」）でも大きな注目を集め、別府市は 2009 年度の文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受賞した。

「混浴温泉世界」を経て、今後 2012 年の開催を予定している次回の「混浴温泉世界」を見据えながら、文化芸術の振興と地域の融合による活性化モデルとして、本事業を開催した。

別府市における現代芸術振興活動　沿革

第２章　開催概要

複合型の現代芸術祭「BEPPU PROJECT 2010　アート・ダンス・建築・まち」 は、戦災に遭っていない別府の裏路地散策と市民参加型のアートの融合を試み、別府の地域性を活かした「まちなかアートフェスティバル」である。「アーティストが町に滞在する」、「市民が関わり作品が生まれる」を大きな２つの柱に、別府市中心市街地を会場として開催した。

（1）クレジット

名称：和＝「BEPPU PROJECT 2010 アート、ダンス、建築、まち」
　　英＝「BEPPU PROJECT 2010 Art, Dance, Architecture and the City」
主催：NPO 法人 BEPPU PROJECT、文化庁
会期：2010 年 3 月 6 日（土）～22 日（月・祝） 休＝火曜日
開場時間：11:00～18:00／10:30～18:30（platform04／総合インフォメーションセンター）
会場：別府市中心市街地各所 （旧 A 級別府劇場、山田別荘、platform ほか）
助成：アサヒビール芸術文化財団
　　FONDS VOOR BEELDENDE KUNSTEN VORMGEVING EN BOUWKUNST
　　文化庁 地域文化芸術振興プラン推進事業
特別協賛：アサヒビール 株式会社　　※「BEPPU PROJECT 2010」は AAF2009 の参加事業として企画された。
協賛：株式会社 日本航空／内外薬品 株式会社
協力：日本ペイント 株式会社
後援：大分県／大分市／別府市／大分県教育委員会／別府市教育委員会／ツーリズムおおいた／別府商工会議所／別府市観光協会／別府市旅館ホテル組合連合会／別府市中心市街地活性化協議会／別府市商店街連合会／別府市料飲協同組合／大分県芸術文化振興会議／大分合同新聞社／朝日新聞社／毎日新聞社／読売新聞西部本社／日本経済新聞社大分支局／西日本新聞社／共同通信社／今日新聞社／NHK 大分放送局／OBS 大分放送／TOS テレビ大分／OAB 大分朝日放送／エフエム大分／CTB メディア／シティ情報おおいた／CONKA ほか
チケット：クーポン型チケット BP（ビーピー） 6BP で 500 円、入場料 1 BP～
　　※中学生以下参加費無料（BP 無配布。中学生については各受付で学生証の提示を求めることがある）
BEPPU PROJECT 2010 公式サイト　http://beppuproject2010.wordpress.com

【BEPPU PROJECT 2010　組織】
総合プロデューサー：山出淳也（NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事）
総合ディレクター：芹沢高志（P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター）
美術部門ディレクター：雨森 信 （Breaker Project プログラムディレクター）
ダンス部門ディレクター：佐東範一（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network 代表）

（2）目的

目的	内容
地域性を活かした芸術振興	開催地区を中心市街地にしぼり、platform04 等にすでに保存されている美術作品の展示や、新規に制作する美術作品、ダンス公演などを中心市街地各所を会場とすることで、参加者がアートを探して町を回遊する「まちなかアートフェスティバル」を実施。文化芸術の振興・普及とともに、アートと町の双方を楽しむコンテンツづくりによって、集客交流人口の増加を目指す。
中心市街地の空洞化に対する、アートを対象とするまちなか居住研究	「わくわく混浴アパートメント」の発展系として国内の若手アーティスト数組が実際にこの町に住んで、住民参加型ワークショップの開発を行い、地域における芸術普及プログラムの開発を進める。また、建築プログラムを盛り込み空き店舗の再生を考える。将来、この地域が発進力の高いアーティスト・ビレッジとなるための基盤整備を行う。
これからの地域を担う、コンシェルジェ人材の育成	各会場を案内するコーディネーターは、各作品の紹介はもちろん、地域の歴史や食事処、温泉施設や効能、楽しみ方などを紹介する、町のコンシェルジェ的人材となる。
マーケット開拓のための動向調査	事業全体を動向調査として位置づけ、新規顧客がこの地域に何を求めているのかアンケートによって調査し、今後の新規マーケット獲得のための指標とする。
地域の地場産業との協働による新たな集客交流事業	地域の旅館組合や観光業と提携し、地域の魅力促進事業として芸術体験滞在プログラムを創出する。他の NPO と協働し、入り込み客への地域体験サービスの向上を図り、Web で販売を行う。
アートと地域双方を楽しむクーポン型地域通貨の開発	本事業のアート観賞やダンス公演などの参加は、クーポン型チケット【BP】を開発し、地域の飲食店や温泉施設などでの使用が可能。横断的に町を楽しむ仕掛け作りとしての社会実験とする。

（3）各部門内容

■美術

8 組の現代美術アーティストが中心市街地に滞在し、地域住民や子どもたちを対象とするワークショップを市内各所で実施。また各 platform や旧 A 級別府劇場などに作品を展示し公開した。

■ダンス

6 組のダンサーや市民が参加したダンス公演。中心市街地各所を会場にダンスと町の双方を楽しめる公演を実施。また、「世界のおもしろビデオダンス上映会」も同時に開催した。

■建築

国内外で活躍中の建築家集団「みかんぐみ」による元ストリップ劇場のリノベーション計画を発表し展示を行った。一部リノベーションも行い、ダンス公演や美術作品の展示の場としても活用した。

■講演会・トーク

ロンドンオリンピック 2012 の文化教育委員会最高責任者であるジュード・ケリー氏（英国／サウスバンク・センター芸術監督）を招聘し、文化が地域にもたらすものについて、イギリスの事例を踏まえて考える記念講演会を開催した。

また、九州各地のアート NPO らが集い、今後の連携のありかたを模索するフォーラム「九州アートネットワーク車座会議」を開催した。

■ツアー企画

ディレクターによる作品ガイドツアー「ディレクターツアー」のほか、ディレクターが幹事となり、夜間に気軽に話すことができる場、「ディレクターと飲もう会」を開催した。

■協力企画

会期中、「わくわく別府タワー」や「GFRY STUDIO」、「スナック優子」が他団体の主催で開催された。

第３章　開催記録

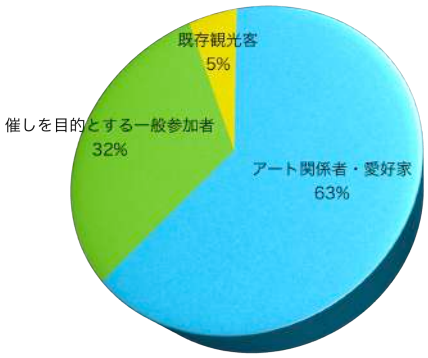
（１）観客動員数・経済効果・広告換算

１－１観客動員数

総観客動員数は、のべ 7,312 人となった。

上記は、スタッフを配置し、来場者数を数えることができた作品やイベントにおけるのべ来場者数である。作品・イベントによってはチケットの購入なしでの参加、鑑賞が可能であり、数値には無料鑑賞者が含まれる。

アート関係者・愛好家、一般参加者、観光客の内訳は右図のとおりである。



本事業では、会期が春休みと重なった。築 100 年の長屋の一室を活用した総合インフォメーションセンター、BOOK CAFÉ Beppu（platform04）では、催しが開催中であることを告知する黒板や暖簾などの告知物を出していたこともあり、観光客がふらっとインフォメーションセンターに立ち寄り、スタッフの話を聞いてチケットを購入する光景も見られた。

１－２直接経済波及効果

試算対象は来場者（従事者は除く)とし、来場者数に 1 人あたりの消費支出額を乗じたものを直接経済波及効果の額として算出した。消費支出額は、下記の計算式の通りとする。チケット実売数＝実参加者数としてカウントし、無料会場での参加者はカウントしていない。

有料来場者による直接経済効果　　10,640,100 円

■県内来場客（合計 726 名）：3,702,600 円

726 人×（駐車場代 600 円＋飲食費 2,000 円＋土産代 2,000 円＋イベント参加費 500 円）＝3,702,600 円

■県外来場客（合計 375 名）：6,937,500 円

375 人×（宿泊費 9,000 円＋飲食費 4,000 円＋交通費 2,000 円＋土産代 3,000 円＋イベント参加費 500 円）＝6,937,500 円

算出にあたって「大分県観光統計調査（ 平成 18 年 4 月～6 月)」、「平成 17 年度大分県観光動態調査」の別府市該当数値、および「平成 17 年度大分県民経済計算」、「平成 12 年大分県産業連関表」等を利用した。また、来場者の地域は、第 5 章での、回収されたアンケートを参照し、その割合によって算出した。

◎イベント参加費＝入場料＝500 円（クーポン型チケット※1／中学生以下参加費無料）

１－３広告換算

全国メディアへの掲載は、現在は目標３件に対し２件にとどまったが、九州・大分では、目標 20 件に対し、90 件の掲載・放映となった。取り上げかたや記事の内容から「混浴温泉世界」以降として、今回の事業ならびに今後の継続的な展開への期待の高さが伺われた。

広告換算は、**74,543,351 円**となった。　（2010 年３月現在。株式会社ジャパン通信　調べ）

（２）各企画の記録

２－１アート

１．趣旨・目的・概要

今回アート部門に参加した 8 組のアーティストは、別府に滞在して制作を行なった。全体的な特徴としては、作品の制作段階で市民が参加したり、作品自体がワークショップの形式になるなど、参加者とのコミュニケーションを取り入れた作品が多く制作された。これは、今回の企画のコンセプトにもなっている、「日常の中にアートを取り入れる」ということを具体化する上で、アーティストの制作するプロセスに関わり、アートの魅力に触れてもらおうという意図がある。

また、今回参加した作家の一部は今後数年に渡り、作品制作を行っていくことで合意している。つまり、BEPPU PROJECT 2010 は一過性のイベントではなく、各プロジェクトが、今回培った関係性を基に今後も継続し、発展していこうとするもので、アートが市民にとってより身近で日常的な存在となることを目指そうとしている。

２．制作記録

■伊藤 存

作品名：「この苔庭にいのししはいない」、「ウラのサル」、「おふたりさん」、「この池に家鴨がいない」（すべて刺繍作品）

制作スケジュール：作品設置日／3 月 4 日

会場：platform06

【詳細】

今事業では、ワークショップ（刺繍会）がメインであったため、その集客とあらかじめ刺繍会が目指す方向性について周知するために、旧作品の展示を行った。

ワークショップ：トーク＆刺繍会

制作スケジュール：準備期間／2 月 24 日～3 月 13 日、実施日／３月 14 日

会場：platform06

対象：一般の参加者

協力：別府市老人クラブ連合会 婦人会

【詳細】

platform06 の運営団体である別府市老人クラブ連合会の婦人会にご協力いただき、刺繍会を開催した。完成した作品は、会期終了まで会場に展示した。日ごろから platform06 で手芸を楽しむ婦人会の方々や、刺繍やアーティストの活動に興味のある若い世代など、幅広い層が参加した。中にはワークショップ終了後も作品に手を加えるなど、継続して制作に取り組んだ参加者もいた。

■遠藤一郎
作品名：「別府未来龍大空凧」凧づくりワークショップ
制作スケジュール：準備期間／2 月 18 日～27 日、実施期間／2 月 28 日～3 月 4 日、3 月 6 日～22 日
会場：清島アパートとその周辺
対象者：別府市南部児童館の子供たち、地域住民、一般の参加者
協力：清島アパートに滞在していたアーティスト
【詳細】
　清島アパート来訪者や出張ワークショップの参加者と、会期前から毎日凧をつくり、夢を書いた。特に会期前はボランティア・スタッフの人数が充分でなく、遠藤氏やその仲間のアーティストに会場管理なども含めて委託した。今後は早期の企画内容決定に努め、事前にボランティア・スタッフを集め、説明会や研修を行なえるよう善処したい。

作品名：「別府未来龍大空凧」凧あげパフォーマンス
制作スケジュール：準備期間／2 月 18 日～3 月 5 日、実施期間／3 月 6 日～22 日
会場：的ヶ浜公園スパビーチ
協力：清島アパートに滞在していたアーティスト
【詳細】
　ワークショップで完成した凧を連凧に仕立て、毎日集まった方々と凧あげをした。ワークショップと同様、ボランティア･スタッフを充分に充てることができなかった。そのため、会場に常駐する遠藤氏や、遠藤氏の声かけによって集まった人々に管理や運営を委託した。イベント開催時に即対応できるよう、今後も継続してボランティア・スタッフの募集や育成に努めたい。

■大橋重臣
作品名「TAKEYA」
制作スケジュール：下見／1 月下旬、制作期間／3 月 1 日～5 日
会場：platform05
【詳細】
　大橋氏は別府市在住の竹工芸職人で、築 100 年の長屋の一室を利用したリノベーション施設、platform05 での作品展示に取り組んだ。竹の特性を熟知し、陰影を生かした作品は、工芸と現代アートが融合した取り組みとして高評を得、地元の新聞で大きく取り上げられた。platform05 の家主は、毎日会場に展示された竹の花かごに花を生け、来場者の目を楽しませた。

作品名「竹場」
制作スケジュール：制作期間／2 月 12 日～19 日、実施日／3 月 7 日、13 日、14 日、20 日、22 日
会場：platform07
協力：別府竹細工組合
【詳細】
　竹ひごを 3 本組み合わせた三角形のパーツを用い、砂場のように自由な造形遊びができる作品を制作した。竹のパーツはボランティア・スタッフとともに制作した。会場運営には、制作に参加したボランティア・スタッフ

と、普段 platform07 の竹細工工房で制作を行っている竹工芸職人が携わった。参加者には小さな子どもも多く、運営には細心の注意を払った。

■サルキス
作品名：「“水のなかの水彩画アトリエ”ワークショップ」
制作スケジュール：実施日／3 月 6 日、13 日、20 日、21 日
会場：P3/BEP.lab（旧草本商店）、山田別荘
対象：一般の参加者
運営：ボランティア・グループ「エンジェル」

【詳細】
作品を考案したサルキス氏の来別はなく、「混浴温泉世界」でサルキスより直接指導を受けたボランティア・グループ「エンジェル」が運営した。「エンジェル」のリーダーで、取りまとめを行なってきた大学生が本年度卒業予定なので、今後、この企画をどのように運営していくか、「エンジェル」と考える必要がある。

■ブブ・ド・ラ・マドレーヌ＋山田創平
作品名：「水の未来の物語」
制作スケジュール：下見／1 月 31 日〜2 月 3 日
制作期間／3 月 6 日〜3 月 13 日
会場：展示（オープンラボとして公開）とサロントーク／サロン岸、公開フィールドリサーチ／浜脇エリア
協力：サロン岸

【詳細】
別府の人や町とともに、そこに満ちる「水」の過去と現在を描き、「地図」ならぬ「水図」を発見するプロジェクトを始動した。会期中はフィールドリサーチを行うと共に、会場を訪れた人を対象に、別府にまつわる様々な歴史や記憶についてのヒアリングを行った。ボランティア・スタッフが足りず、アーティストや会場提供者に会場管理を含めて委託した。会期前までに必要な人員を集め、事前の研修会を開催したい。

■フランク・ブラジガンド
作品名：「Japanese Style」
制作スケジュール：下見／2009 年 12 月 10 日〜17 日、制作期間／2 月 15 日〜3 月 8 日
会場：platform02
協賛：日本ペイント

【詳細】
作品の素材となるものの多くは、アーティスト自身が別府市内のリサイクルショップを巡り購入したが、一部別府市民より提供していただいた。塗料などを使える作業スペースがなかったので、今回は、所有者の許可を得て中心市街地にあった空き地を利用し、天候を気にしながらの作品制作となった。今後、文化芸術事業を中心市街地で行なうためには、作業スペースやアトリエの確保は不可欠となるだろう。

作品名：「white collection」
制作スケジュール：下見／2009 年 12 月 10 日～17 日、制作期間／2 月 15 日～3 月 8 日
展示場所：国際通りソルパセオ一帯の複数店舗
協賛：日本ペイント
【詳細】
　商店街の店舗の皆様に、ゴミ箱、踏み台、ショッピングカートなど古くなって使わなくなった物を借り、ペイントを施した後、元の持ち主に返却し、展示してもらった。

■山中カメラ
作品名：「別府最適音頭」
制作スケジュール：設置日／3 月 5 日
会場：platform01
【詳細】
　本事業の会期最終日のイベント「別府 春の大ボンダンス大会」告知ブースとして、商店街で映像とインスタレーションからなる作品を展示した。

作品名：「別府春の大ボンダンス大会」
制作スケジュール：期間／1 月 18 日～3 月 21 日、実施日／3 月 22 日
会場：楠温泉跡地
協力：楠銀天街、楠町 1 区自治会、楠銀天街協同組合、別府市老人クラブ連合会、別府市立鶴見台中学校吹奏楽部、山内 桂、アンサンブル OITA
協賛：内外薬品株式会社
【詳細】
　市民へのヒアリングやフィールドワークを重ね、「混浴温泉世界」時に山中氏が制作した「別府最適音頭」に、あらたな歌詞を付け加えた。会期最終日には、地元の吹奏楽団の演奏にあわせ、地域住民や一般参加者と共に「別府最適音頭」を踊った。やぐらやちょうちん、電球等は近隣の商店街や別府市民から借りている。地域に根ざすプロジェクトを目指し、今後も継続的に実施していきたい。

■山本高之
作品名：「どんなじごくへいくのかな」
制作スケジュール：下見／2 月上旬、制作期間／2 月 13 日～3 月 4 日
場所：別府市南部児童館
協力：別府市在住の小学生
【詳細】
　児童館に日頃から通う地域の小学生と共に作品制作を行なった。制作過程で刃物を使用したため、子どもが安全に道具を使用できるよう注意を払い、指導をした。

作品名：「NAME DROPPING」
制作スケジュール：下見／2 月上旬、制作期間／2 月 13 日～3 月 4 日
場所：制作／別府市南部児童館、展示／platform03
協力：別府市在住の小学生、「まちなかカフェ」のスタッフ

【詳細】
児童館に通う地域の小学生が出演する映像作品を制作した。完成した作品は、地元の大学の研究室が運営しているplatform03「まちなかカフェ」に展示された。会場を運営するにあたってはボランティア・スタッフの他、「まちなかカフェ」のスタッフからも協力を得た

３．成果と今後に向けての課題

成果
アーティストが町に滞在し、各々が地域の人との交流を通じて築いた独自のネットワークを基に、この土地と深い関係性を持った作品を制作した。
また、今回関わったアーティストの多くが、別府の町や人に触れ、またここで制作したいと高いモチベーションを持ち別府を離れた。アーティストがこの土地に愛着を感じてくれているということは、今後継続する事業の展開において重要な成果を残したと言えるであろう。

課題
作品を制作する上で必要となる拠点を確保できなかったことがプロジェクトの進行に支障をきたした。今回の制作拠点となっていた platform は、それぞれの場の特性から利用法に制限があり、塗装や木材の裁断などの作業は platform01 正面にある空き地を活用した。今後も地域と関係性を持った作品制作を進めるにあたって、制作環境の整備は重要になると考える。今後の滞在制作モデルを考える上でも、早急な改善が望まれる。

２－２ダンス
１．趣旨・目的・概要

「１日中ダンスを楽しむ」というコンセプトのもと、１日で５カ所、計８組のダンサーが別府の中心地の様々な場所で踊るダンス公演「踊りに行くぜ!! vol.10 MINI DANCE FESTIVAL」を NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network（JCDN）の全国主催のもとに開催した。スタッフが各会場に誘導するのではなく、公演を時間で区切り、各自で次の開演時間までに会場間を移動するものとした。
これは参加者が町を自由に周遊し、空いた時間でカフェやレストランを利用するなど、公演をきっかけに町そのものも楽しんでもらうことを目的としたものである。

２．制作記録

■山田別荘
80周年を迎えた旅館 山田別荘の客間や温泉、庭など、全館を使ってダンス公演を実施した。
出演者の「別府巫レッグウォーマーず」は、「混浴温泉世界」でのベップダンス「オープン・ルーム–別府市中央公民館をめぐるダンスジャーニー」で募った出演者達によって構

成されている。「オープン・ルーム」が終わった後も、独自に練習を重ね、公演の機会を持つ等、積極的にダンス活動を展開していた。

また、もう一組の「たばこと菓子パン」は大分在住のダンサーで、福岡で行われた「踊りに行くぜ!!選考会」より選出され、今回の出演となった。「たばこと菓子パン」は、「混浴温泉世界」を含め、別府・大分で行われるコンテンポラリーダンスのワークショップ等に参加しており、意欲的に活動している大分のダンサーである。山田別荘公演の総合演出を務めたのは、旧A級別府劇場にも出演する北村成美で、来場者を２組に分け、ボランティア・スタッフのガイドのもと館内の様々な所で行われるダンスを見る、ツアー形式の公演となった。

繁忙期である３月に、旅館全館を貸し切っての公演が実現したのは､地域へダンスが浸透してきたことの顕われであり、これまでの活動の成果と言えるだろう。当会場の公演では地域の方々の積極的な関わりにより実現した。今後もこの関係を継続させていきたい。

日時：3月13日、14日　13:00～14:00
アーティスト：別府♨レッグウォーマーず（演出：北村成美）、たばこと菓子パン
集客数：13日／57名、14日／83名

■やよい天狗通り、platform01（国際通りソルパセオ内）

2つの商店街を使う路上でのダンス公演を実施した。商店街を使ってのダンス公演は2008年から度々実施してきた。今回の公演では、以下２点が町との関係の変化として挙げられる。

<u>１、地域住民のダンスに対する関心が高まっている</u>
<u>２、以前に比べ商店街でダンス公演を実施しやすくなった</u>

１に関しては、近隣の商店からダンス公演を見に来てくれる方々が多く見られ、さらに「このダンスはどういう意味？」等の質問を受けることもあったことから実感された。また２に関しては、商店街を使用するにあたって、道路の使用申請や、商店街の電気・スピーカーの使用等を快く受け入れてくれるようになった。また、ほとんどの店舗が営業中だったにも関わらず、商品を店の中に下げてくれる等の配慮も見受けられた。これらの町の変化は、これまでの事業の積み重ねの成果であると言えよう。

・やよい天狗通り会場
日時：3月13日、14日　15:00～15:30
アーティスト：美音異星人
集客数：13日／110名、14日／130名

・platform01会場
日時：3月13日、14日　15:30～16:30
アーティスト：んまつーポス、中島由美子
集客数：13日／110名、14日／130名

■元町公民館（竹瓦温泉2階）

生のダンスではなく、映像を鑑賞する「ビデオダンス」というジャンルは初めて経験した人が多かったであろうが、アンケートの結果では「おもしろい」という声が多数挙っていた。

県下でも初のビデオダンス上映会ということで、集客の面が心配されたが「ダンスフェスティバル」という枠組みの中で実施したためか、両日とも多くの来場者を迎え、ダンスにまつわる新しい表現を広く紹介することができた。

日時：3月13日、14日　17:00～18:00
アーティスト：飯名尚人
集客数：13日／40名、14日／59名

■旧A級別府劇場

現在改修工事中の元ストリップ劇場を会場に、ダンス公演を開催した。当会場では３組のダンサーが出演した。公演のフィナーレを飾った北村成美は、本公演をもってソロ公演の一時休止を宣言し、別府にとっても北村本人にとっても記念すべき公演となった。また「おやじダンス」は昨年度開催した「混浴温泉世界」で生まれたコミュニティダンスのグループで、今回は演出にスウェイン佳子を迎えた。各ダンサーとも会場の雰囲気や歴史、またそこに残っている設備などを考慮し、短い時間で振り付けにアレンジを加え、作品を仕上げた。

今回がこけら落としであった本会場では、会場内の誘導やスタッフの配置など人の動きを予測することができず、円滑に進められなかった。出演ダンサーの声やアンケートを参考に、今後の改修プランを再検討したい。

日時：3月13日、14日　19:00～20:30
アーティスト：北村成美、関かおり、おやじダンス（演出：スウェイン佳子）
集客数：13日／100名、14日／132名

●全体集客
13日：417名
14日：534名
2 日間合計：949 名

３．成果と今後の課題

成果

・昨年度の「混浴温泉世界」で生まれた２組のコミュニティダンスグループが継続して今回も参加した。
・地元から生まれたダンサーが選考会を通して出演した。
・地域や市民へのコンテンポラリーダンスの浸透率が高まってきているのを感じた。
・「ビデオダンス」という新しいダンスのジャンルを紹介できた。
・空き店舗だった場所（旧Ａ級別府劇場）の新しい使い方の提案ができた。

課題

・アーティストやコーディネーターの下見、もしくは現地入りを早めにして、打ち合わせをすべき。
・プレスや記録に関しての事前の打ち合わせが必要。
・会場が多かったことから、当日のスタッフの人員の確保に困難した。
・今後、ダンサーが長期滞在し、ワークショップやトークの開催などで、地域住民との交流の場をもち、よりコンテンポラリーダンスを地域に浸透させていきたい。

２－３建築

１．趣旨・目的・概要

2009 年 6 月に幕を閉じた県内唯一のストリップ劇場「旧 A 級別府劇場」を、新たな表現活動の発信の場として再生するプロジェクトを始動した。参加建築家のみかんぐみが今回発表したリノベーションプランの展示をもとに、2012 年の完成を目指し、今後、劇場のあり方を市民とともに考え、リノベーションを進めていく。

２．制作記録

場所：旧 A 級別府劇場
日時：会期に準じる
入場料：3BP（山本高之作品鑑賞料含む）
建築家：みかんぐみ

３．成果と今後の課題

かつてストリップ劇場として使用されていたため、花道や回転ステージなど、通常の劇場とは形式を異にするが、その特徴を活かし、改修を進める。

今回のリノベーション作業は、セルフ・リノベーションであり、一般的な工作機械の使用が必須で、ある程度の危険が伴うため、ボランティアとしてどこまで関わることができるものとするか、判断が難しい。一方、そのような作業を避けてはリノベーションに関わったという充実感が得られないのも事実である。工作機械の安全な使用方法についての研修を行い、ある程度の作業を任せることができる人材を育成して

いくことも考慮したい。

当初、建築家と BEPPU PROJECT の作業担当者の間で細部の施工についての確認作業がスムーズに行われなかった。これはみかんぐみ担当者が現場に留まれなかったという物理的な理由によるものである。また、例えばダンスや美術と違って、建築部門にはディレクターが不在で統括者が誰なのか分かりにくいことも原因であった。今後のリノベーション作業に当たっては、プラン作成者もしくは代理のものが現場に常駐し、細部についてその都度指示があるのが望ましい。

２－４講演会・トーク

１．ジュード･ケリー氏記念講演会

（１）趣旨・目的・概要

イギリスから、英国最大の文化施設「サウスバンク・センター」の芸術監督であり、ロンドンオリンピック 2012 文化･式典･教育責任者でもあるジュード･ケリー氏を招聘し、アートが都市に地域に何をもたらすのか、そして地方でアート活動を行う意義や必要性について、ここ別府で考える講演会を開催した。現在別府で起こっているさまざまな文化活動や、若手アーティストによる活動が持続可能なものとして、今後ますます地域に根付き、発展させていくことができるよう、イギリスの事例を学び、理解を深めた。

会場：別府ブルーバード劇場３階
日時：3 月 7 日 15:00～17:00
入場料：9BP
定員：150 名　※要予約

（２）成果と今後の課題

成果

ケリー氏がイギリスの３つの地方都市で立ち上げている、若手芸術家のための実験的創造スペース「メタル」の活動や、自身が責任者を務める英国最大の芸術施設「サウスバンク・センター」についての話を通じ、氏がどのような信念を持ち、何を目指して活動してきたかを、力強い身振りを交え全身で会場に伝えた。アートと地域での活動を一つの大きな箱としてとらえるべきであると語り、一人一人が公共の精神を持つことの大切さや、地域に根差した芸術活動を行うことの重要さを改めて説いた。

会場からの質疑を多く受け付けたため、参加者より回収したアンケートには「知りたいことを聞くことができ、実用性の高い講演会であった」との感想もあった。別府や、その他の地方都市において文化活動を行っている者や、これから行おうとしている者にとって、今後の活力を与えてもらえた講演会となった。余談ではあるが、参加アーティストでもある遠藤一郎の「未来に希望を残すためにできることは？」との質問に、「権威のある人間が、時に馬鹿げてみえることをしてみせることも必要である」と、同じく参加アーティストの山中カメラの作品「別府最適音頭」を壇上で披露したのは特筆すべき印象的な出来事であった。

課題

この講演がきっかけとなり、新たな事業が興ったり、またこれまで以上に地域と文化、芸術との連携の実現を模索していくことが、今後の地域全体の課題であり、望まれる波及効果であろう。この実現のために、講演の内容をテキスト化し、同じ問題を抱える地域や活動体との共有を目指したい。

２．九州アートネットワーク車座会議

（１）趣旨・目的・概要

九州沖縄でアート、建築、デザインなどを通じた特徴のある取組をしている団体を招聘し、今後九州沖縄エリアの中で独自のネットワークを構築していくことを目的とした初めての会議を開催した。

このネットワークを発展させ、将来、九州沖縄圏内で多様なプロジェクトが展開されることを期待している。

日時：3 月 20 日 16:00-19:00
会場：元町公民館（竹瓦温泉２ 階）
料金：無料（但しチケットの半券が必要）
参加者：　浦田琴恵【桜島プロジェクト 代表／アーティスト（桜島／鹿児島県)】、小山冴子【art space tetra／とんつーレコード 主宰（博多区／福岡県)】、城野敬志【ARITA-mobile 代表／アーティスト（有田町／佐賀県)】、スズキジュンコ【モンネポルト 代表／アーティスト（波佐見町／長崎県)】、塚田純子【秋吉台国際芸術村 キュレーター（美祢市／山口県)】、中西義昌【岡の里事業実行委員会（竹田市／大分県)】、恒吉美智子【ゆふいんアート委員会 事務局（由布院町／大分県)】、長野聖二【河原町文化開発研究所 代表／建築家（河原町／熊本県)】、野田恒雄【TRAVELERS PROJECT（紺屋 2023 等）オーガナイザー／建築デザイナー（大名／福岡県)】、林 僚児【スタジオ解放区／アーティスト（沖縄市／沖縄県)】、光浦高史【DABURA 共同主宰／建築家（大分市／大分県)】
コーディネーター：　裏 正亘【NPO 法人 BEPPU PROJECT 副代表理事／GALLERY BLUE BALLEN 代表(由布院町／大分県)】、宮本初音【ART BASE 88 主宰／アートコーディネーター（大名／福岡県)】

（２）成果と今後の課題

成果

九州・沖縄のすべての県からアートプロジェクトに関わる様々な人が別府に集まり、今後のネットワークのあり方について協議することができたのは、大きな成果と考えられる。九州沖縄ではまだまだアートを企画・プロデュースし地域との関係を模索する団体が少なく、それが故に具体的な協力関係の構築や、課題解決の具体的な方法について話す機会が少ない。そうした中で、九州沖縄の各県で活動する団体が集まり、こうした関係性を発展させていこうという流れができたことは重要なことと考える。

今後は各団体が管理する滞在施設の活用や、連動したアートプロジェクトのイベント開催など具体的なアイディアをつくっていきたい。また、今年の秋には第２回の会議として熊本県での会議が予定されている。

課題

将来的に、今後この企画を成長させていくことが重要になる。つまり一過性の集まりとならないように、定期的な会合と具体的な議題が必要になってくる。

現段階では、まだどういう連動ができるか、アイディアを出し合っている段階であり、これらを試験的に行い、それを検証していくという流れが必要となる。成果の項で上述した、滞在施設の活用の場合、アーティストの選定方法や、事業予算をどのように分割するか、スケジュールの調整など今後検討すべき項目は多い。

２－５そのほか

「混浴温泉世界」時に好評だった「まちの歩き方ツアー」「ディレクター＆プロデューサーズ・ツアー」を、本事業では「ディレクターツアー」として平日昼間を中心に週 2 回実施した。また、ツアーの発展系として「ディレクターと飲もう会」を週２回開催した。これは、ディレクターが「幹事」となり、参加者を加盟店へと誘導し、飲食しながらより身近に話すことができる場となった。

また、協力企画として会期中複数事業が他団体の主催で開催されたことは、特筆すべきことである。

■ディレクターツアー
内容：美術部門の展示案内を中心にまちを歩く。
ツアー会場：platform02／05／06／旧 A 級別府劇場／サロン岸
料金：9BP（各会場の入場料金含む。受付=platform04 で徴収）
日時：各回 15:00～17:00（platform04 に 14:50 集合）
10 日（水）案内人：芹沢高志／11 日（木）案内人：山出淳也／17 日（水）案内人：芹沢高志、
18 日（木）案内人：山出淳也、21 日（日）案内人：雨森 信
人数：15 名（定員）

■ディレクターと飲もう会
内容：加盟店で飲食をしながら、本事業やアートの今、まちのことなど、ディレクターが語る。
料金：3,500 円（飲食費含む。BP での支払い可。受付=platform04 で徴収）
日時：各回 18:30-20:30（platform04 に 18:20 集合）
8 日（月）幹事：芹沢高志＋山出淳也／15 日（月）幹事：芹沢高志＋雨森 信／
19 日（金）幹事：芹沢高志＋山出淳也
人数：8 名（定員）

（３）BP の取り組み
３－１趣旨・目的・概要

美術作品の展示、まちなかダンス公演の実施、市民参加ワークショップなどとともに、イベント参加者に積極的に町を楽しんでもらうための仕掛けとして、会期中のみ有効なクーポン型チケット BP（ベッポイント：通称「ビーピー」）を販売した。

「混浴温泉世界」の際にアート作品だけでなく、飲食店や温泉も一緒に楽しむ来場者が多くみられた。アンケートの結果からも、作品ばかりでなく別府のまちを楽しむ声が寄せられた。スタッフお勧めの店舗を掲載したグルメマップを作成し来場者に配ったところ好評で、店舗からも「来店者が増えた」という反応があった。

BP はこれらの事例をうけ、町を楽しむ仕掛け作りとして、また、これまで以上に地域の商店と密に連携をとりたいという思いから生まれた。

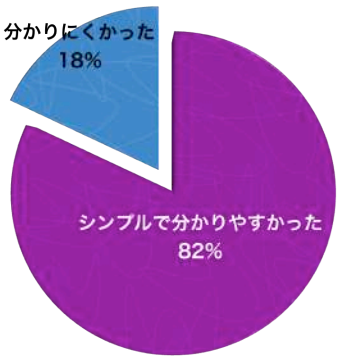
※500 円で 6 枚綴り（単位＝ビーピー、以下 BP）。6 BP のうち、1 枚は「BEPPU PROJECT 2010」専用券とし、その他の 5 枚は作品鑑賞やダンスやイベント参加費のほかに温泉入湯や加盟店での飲食にも使用可能な共通チケットとした。

３－２参加店舗の声

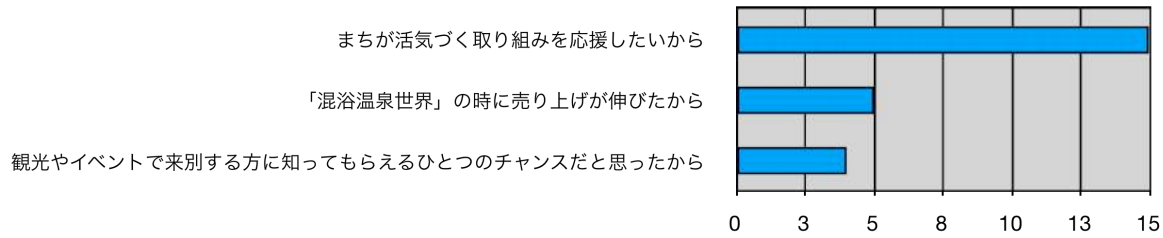
「まちを丸ごと楽しむ」ための仕掛けとしてはじまったこの取り組みは、分かりにくさに関する声が若干寄せられたものの、おおむね好評であった。今後も継続的に取り組んでいくために、BP 加盟／協力の 17 店舗に対し、会期終了後アンケート調査を行なった。

■BP のシステムの説明について

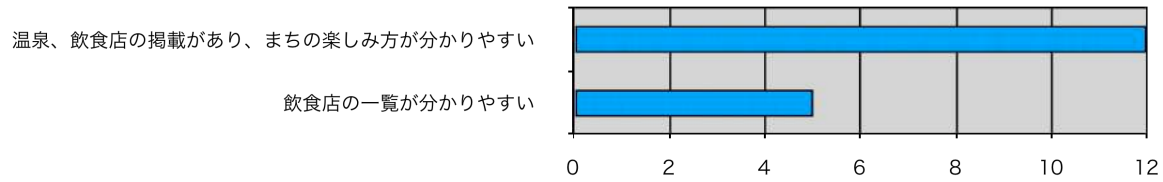
右図参照。



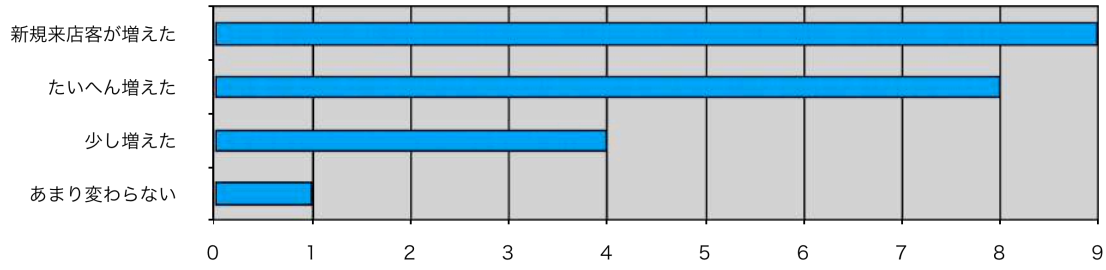
■加盟店舗になった理由（複数回答可）



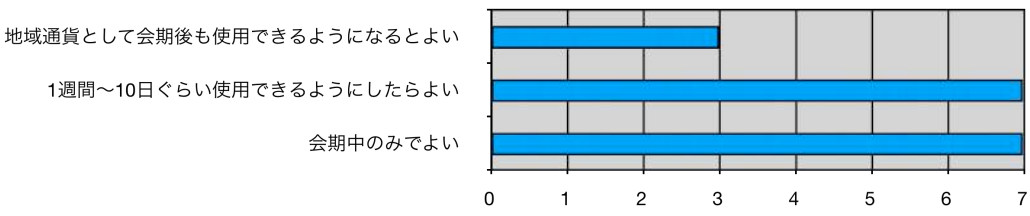
■イベント＆グルメマップについて（複数回答可）



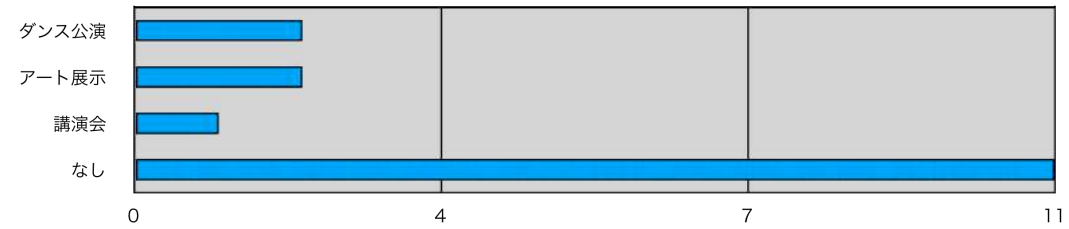
■BEPPU PROJECT 2010 開催期間中の来店客の増減について(複数回答可)



■BP の使用期間について　（複数回答可）



■参加された催しはありますか？　（複数回答可）



■今後行なってほしいイベントや BEPPU PROJECT へのご感想ご意見があればお書きください。（自由回答）

【BP について】

利用方法の周知に関するコメントが多数寄せられた（鑑賞券や「切り離し無効」の不便さ等）ほか、大きさ（「小さい」）や他機関（行政や商工会議所）との協力関係構築を希望するコメントが寄せられた。本事業全体を通して見ても日帰り客が多く、夜に営業する店では不利という声が寄せられた。

また、広告料の高さを訴える店もあった。

【催しについて】

一人経営や多忙のため参加できないところがほとんどだったが、本事業は総じて歓迎して迎えられたように見受けられる。昼間に加え、夜も開いているよう、開館時間に工夫を求めるコメントがあった。「他県の方に興味を持ってもらえるような企画をどんどんしてほしい」、「音楽もの、音ものが今回なかったので、次に期待する」といった積極的なコメントがあった。

３－３成果と今後の課題

新しい試みであった BP は、各商店の「町が活気づく取り組みを応援したい」というご理解・ご協力により実現することができた。

今事業は、一般的な賑わいを演出するものではなく、観光客及び地域住民がまちを回遊するという別府市中心市街地ならではの場の可能性を引き出すものとなり、生活により密着した試みが注目され、総合的な PR 効果をもたらした。

BP とイベント会場と飲食店や温泉がいっしょに紹介されているイベント&グルメマップを持ってまちを歩くことで、美術鑑賞やダンスイベントに出会い、温泉で体を休め、お勧めのグルメを味わうことができた。

これは、イベント参加のみを目的とする参加者が、展示鑑賞に BP を使用し、クーポンの残りを使用して食事をとる、温泉に入るなど、無駄なく別府のまちを楽しむことを促す仕組みである。

今後も地域を丹念に回り地元の理解を深めるとともに、情報提供発信の機会や利用できる店舗、業種を増やすなど、さらなる認知度と利便性の向上を図りたい。

第４章　運営面の検証

（1）組織

前回の「混浴温泉世界」は実行委員会により開催したが、「BEPPU PROJECT 2010」は、「混浴温泉世界」の事務局を担った BEPPU PROJECT の主催事業として 17 日間の運営を行った。また、「混浴温泉世界」をボランティアとしてサポートしてくれた方や、春休みの期間を利用して別府に長期滞在しながらボランティアをしたいという方を「コアボランティア」という形で迎え入れ、各企画を進めていった。

「混浴温泉世界」の事業報告書にあるように、今後の地域における芸術振興事業を展開する上で必要となる事務局の機能強化、個々人のスキルアップが求められる。そのため本事業は、当初から事務局スタッフの教育プログラムとしても位置づけていた。事務局スタッフの経験が浅い現状では、事務局の組織運営について試行錯誤を繰り返していくしかないが、事業規模に対してスタッフ数は充分足りているにも関わらず、全体的な傾向として、事業を進める人員が慢性的に足りないと言う状況が続き、業務進行に影響を及ぼすこともあった。

改善策として、小規模の事業を継続的に展開し着実に個々人のスキルアップを図ることはもちろん、すべての事業を内部で抱えずに、コアボランティアの方々と共に事業を実施するよう体制をあらためる必要があるだろう。

（2）広報

昨年の「混浴温泉世界」を経て、今後予定される次回「混浴温泉世界」を目指すステップの第 1 弾として本事業を捉え、「混浴温泉世界」の反省を踏まえた改善に取り組んだ。

全国広報は、「混浴温泉世界」時にお世話になった方々を中心に、次回に繋げることを重視した全国主要メディアやアート関係者へのリリース発行や広報印刷物のアート関係拠点への配布などを行なった。

大分県や九州など近隣地域を主な集客エリアと想定し開催した本事業の広報は、まず「混浴温泉世界」後の信頼関係の構築からはじまった。限られた時間と人手の中で、出来ることに優先順位をつけて日々動いた。

成果

■印刷物の配布

ポスター：1,500 部

大分県内の公民館 200 箇所、小中学校・高等学校・児童館、美術館、大学、美術機関、全国の主要な現代美術館、芸術文化振興団体、観光協会、社会教育関係団体、まちづくり団体、別府市中心市街地（温泉施設、自治会の掲示板を含む。主にやよい通り、ソルパセオ国際通り、各会場またはその付近、ゲストハウス、野上本館、クーポン加盟店舗など）へ配布した。

総合チラシ：30,000 部

大分県内の公民館 200 箇所、小中学校・高等学校・児童館、美術館、大学、美術機関、全国の主要な現代美術館、芸術文化振興団体、観光協会、社会教育関係団体、まちづくり団体、別府市中心市街地（温泉施設を含む。主にやよい通り、ソルパセオ国際通り、各会場またはその付近、ゲストハウス、野上本館、クーポン加盟店舗など)、駅、各タクシー会社、各自治会回覧板の利用、大分市の美容院、ショップなどへ配布した。

グルメ＆会場マップ：3,000 部

３月１日より総合インフォメーションセンターにて配布した。会期中は有料会場とぷらはち（platform08）でもクーポン販売とともに配布した。

クーポン：2,000 部

３月１日より販売した。

ポストカード：3,000 部

「混浴温泉世界」時の反省であった、「地域にあった広報ツール」として、レジ回りやショップに設置できるポストカードを作成した。年賀状として発送するなど、事前広報にあてることができた。

■人を介する PR

・信頼関係の構築が進んだ。商店街の方、老人会、自治会、PTA との連携がとれたことや教育行政との関係性が確実に進んだことは今後に大きくつながる。人を介する PR は人手や時間が必要だが、今後もいろいろな会に出席し、対面で広報を行うことを継続していきたい。

■メディア

・全国メディアへの掲載は、現在は目標 3 件に対し 2 件にとどまったが、九州・大分など地域メディアへの掲載については、目標 20 件に対し、90 件の掲載、放映となった。取り上げ方や記事の内容から「混浴温泉世界」以降として、今回の事業への期待の高さが伺われた。機器の導入により、プレスリリースの発行が滞りなく行なうことができたのも、このような結果につながったと思われる。

・集客に結びつく可能性が高い週末の情報エンタテイメントテレビ番組、OBS「かぼすタイム」（土曜日午前中）で、初日に取り上げてもらった。生中継で、参加アーティストや商店街の人々にも出演してもらい、町をあげてイベントがつくられている様子を伝えることができた。

・「混浴温泉世界」と同じように大分合同新聞は破格の取り扱いだった。ほぼ毎日のように掲載があったほか、1 面での取り扱いが短い会期中に 2 回あった。読者に伝わりやすいよう新聞社が独自で会場地図をつくり載せた。また、関係者はもちろん、それ以外の地域住民からの声なども多く掲載された。

・大分合同新聞以外にも多くの新聞で取り上げられた。「混浴温泉世界」時、リリースの投げ込みは市政記者クラブのみだったが、今回は県政記者クラブでも配布し、大分県全体からの判断が可能だったからかと思われる。福岡の記者にプレスリリースを送ったことも各紙の九州版で取り上げられることにつながった。旧 A 級劇場のリノベーションの様子を会期前に写真入りで報じたり（読売新聞、西日本新聞）、各作家にインタビューをするなど、より密度の濃い、細部にわたる掲載が多くみられたことは、「混浴温泉世界」の時と異なる。「最初はどの作品も何を表現しているのかさっぱり分からなかった。『これをどう紙面で紹介すればいいのだろう』と考え込んでしまった。だが、制作者から作品の狙いや鑑賞のコツを聞いてもう一度作品を見ると、驚くほど伝わるものがあった」（読売新聞大分版、3 月 16 日）という声にあるように、回数を重ねてこのような現代芸術の催しを行なうことで、来場者を増やす可能性を示唆している。「『別府発』の試みが、各地で定着すれば、アートをもっと身近に感じることができるのではないかと期待している」（西日本新聞大分版、3 月 25 日）と、今後のさらなる展開を期待する見方があった。

■ウェブ

・ BEPPU PROJECT がツィッターのアカウントを持ち、ウェブサイト、メールマガジン、ブログに加え、インターネットを媒体とした告知の幅を広げた。

課題

■印刷物の配布／人を介する PR

・大分市民への PR

来場者の内訳の 1/4 が別府市市民、1/4 が大分市市民、それ以外の大分県県民が 1/10 だったことから、一定の集客があったが、さらなる集客が望めることから、「日ごろの PR 活動の積み重ね」が今後必要だろう。今回のような規模以外にも BEPPU PROJECT で行なっている催しの際には事前に DM 用のポストカードを制作し、毎回発送をしたり、スタッフが先方にも足を運び、継続して広報を行うことが重要である。とくに主な集客層となりうる若年層が訪れる大分市中心部にある店舗に 1 軒 1 軒訪れ、イベント告知を行なう、大分市内で開催されるイベントに積極的に参加するなど、日頃から情報を集めることが必要である。

なお、このような「日ごろの活動の積み重ね」は人手や時間が必要不可欠だ。事務局の広報担当者をはじめ、BEPPU PROJECT スタッフの協力や大分市内での広報ボランティア・スタッフの募集などが求められる。

■人を介する PR

・「基地」を拠点とした近隣地域との PR 連携

「混浴温泉世界」時のように、福岡の ART BASE 88 を PR「基地」として、福岡の PR 拠点とする打診をいただいていたが、事前説明会※開催後、定期的な PR を行なうことができなかった。会期 3 ヶ月前を目処に打診をし、どのような体制でどのように行なうか（ウェブの活用、広報印刷物の用意、イベント開催など）事前に協議することが求められる。

※福岡の ART BASE 88 にて事前説明会を開催させていただいた。BEPPU PROJECT からは、参加アーティストやプロデューサー、事務局長らが参加し企画の説明を行なった。文化部の新聞記者が来場したほか、「混浴温泉世界」には参加できなかったが、BEPPU PROJECT に強い関心を寄せる学生などが多数来場した。福岡での説明会に参加した学生は、その後、ボランティア・スタッフとして別府に滞在し積極的に参加した。

■メディア

・テレビ局への訪問 PR

テレビ局へは、電話だけでなく、直接局を訪れての PR が必要だったと思われる。いちばん遅くとも、会期開始 1 ヶ月前には全テレビ局への訪問 PR を終わらせることが望ましい。昨年 11 月に本事業について話に行っていたにもかかわらず、記者会見時など会期 1 ヶ月前に訪問することが出来なかった局での放送はなかった。ほかの局についても、話に行ったのが直前で「もう少し前に言ってもらっていたら」と言われた。直前の PR では、印象を悪くし、逆効果を招く可能性があるので避けたい。

■ウェブ

・メールマガジンの定期発行　※とくに会期２ヶ月前から

メールマガジンをいちばん発行しなければならない、会期がはじまる 1 ヶ月前に発行しなかった。2 ヶ月前からメールマガジンの定期発行を行うことが望まれる。イベント告知だけでなく、ボランティアの募集や、ブログへのアクセス誘引にもつながる。

・ブログによる現場情報の発信

現場のスタッフから写真データや日々の動きの情報を収集し、ブログ更新担当者へ伝えるパイプ役が不十分であった。ブログアップのためのルールを設け、監督者が密に管理することが必要である。

■組織

・人材の配置

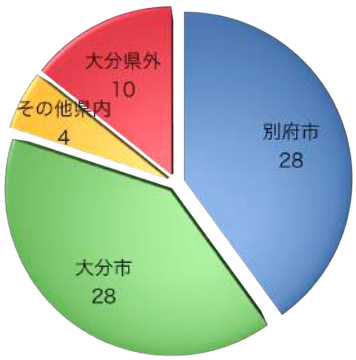
事務局に広報担当者が３名（「混浴温泉世界」時は２名）いたが、本事業に係る印刷物制作すべてを広報が担ったほか、BEPPU PROJECT の他事業と重なり、実質的に本事業の広報にあたる時間が不足した。他事業との兼ね合いについては BEPPU PROJECT 全体的な事業計画とも合わせ、検討が必要である。

（3）ボランティア・マネジメント

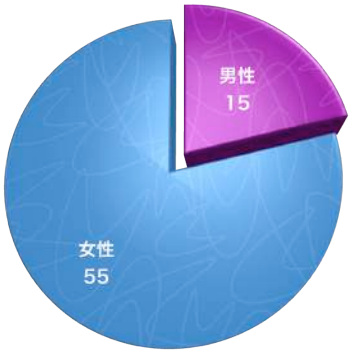
3－1 参加者

今回のボランティア・スタッフの参加者数は 70 名であった。内訳は次頁の表のとおりである；

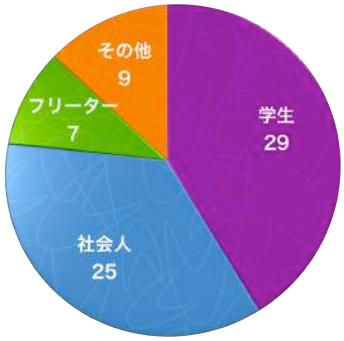
■居住地



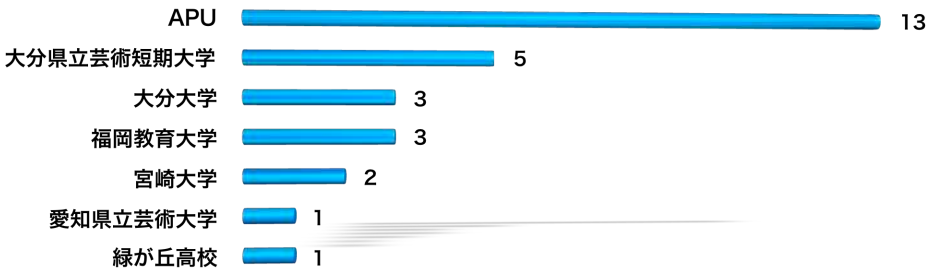
■性別



■職種



■学生ボランティア・スタッフの所属教育機関



性別や居住地は「混浴温泉世界」時とほぼ変わらない割合となった。職種は「混浴温泉世界」時に学生が 6 割を占めていたのに対し、本事業では社会人の割合が高くなった。理由は２つ考えられる。

まず、社会人、とくに主婦層へのボランティアへの参加告知が行なわれた。BEPPU PROJECT のボランティア従事者の多くを主婦層が占めたのは本事業がはじめてである。

２つめは、大分県内の学生への告知機会が「混浴温泉世界」時と比べ、少なかったことが挙げられよう。「混浴温泉世界」開催時は事前に立命館アジア太平洋大学（APU）での告知が強力に行なわれ、会期中に大分県立芸術短期大学の授業でスタッフやアーティストが授業を行なうなどして告知の機会を得たが、冬休み、試験期間、春休みなどが重なり、学生へ向けた告知機会を得ることが難しく、結果として「混浴温泉世界」ボランティア・スタッフ経験者に多くを頼ることとなった。

３－２成果と今後の課題

成果

・「混浴温泉世界」でボランティア経験のある学生が、引き続き精力的に活動をしてくれた。
・前回ダンス公演運営をしたボランティア・スタッフは、前回の経験とスキルを十分に発揮し、会当日の他のボランティアの配置や指示出し、ダンス公演運営をリードした。
・ひとりひとりの目的意識が非常に高い。ボランティア・スタッフ同士で運営の改善を図り、事務局スタッフに運営の相談や提案をするボランティア・スタッフが多くみられた。

課題

・ 前回の課題にもあったが、ボランティアの人数の不足が目立つ。学生の春休みの時期と重なったのも原因にあるが、募集告知、説明会の開催の遅れも要因である。イベント告知と連動し WEB サイト、メルマガ、twitter などで告知を開始し、登録ボランティアとのスケジュール調整を遅くとも 1 ヶ月前にはしたい。さらに、学校や地域の人が集まる場所や会などで積極的に説明会を実施し、随時募集を行うことも必要であろう。
・ボランティア業務の研修がほとんどできないまま会期に入ったため、最初の数日は十分な案内ができないボラ

ンティアが目立った。会期前の研修会の必要性を痛感した。他業務に追われ、ボランティア研修まで行き届かなかった。　※スケジュール管理の強化が必要である。
・今回参加したボランティア・スタッフが、今後、より日常的な事業に積極的に関わってもらえる体制づくりが必要である。
・アートマネジメントを勉強したい学生やイベント終了後も積極的に参加してくれるボランティアがいる。彼らを文化ボランティアコーディネーターとして育成するためにも事務局スタッフのマネジメントスキルの向上が課題だ。

3－4ボランティア・スタッフの声

ボランティア・スタッフが登録しているメーリングリストにアンケートを配信するほか、個別に電話やメールで依頼し、回答してもらった。総回収数は 14 件であり、うち 5 件が今回はじめて BEPPU PROJECT のボランティアに参加した主婦の方々である。

■問１．ボランティア・スタッフとして関わろうと思った理由をお聞かせください。
・アートに興味があったから。たまには若い人と関わってみたかったから。
・「混浴温泉世界」でボランティア・スタッフとして参加し、今回は知り合いに声をかけられたから。
・元々、芸術文化と地域の繋がりに興味があって、他のアートフェスティバルや文化系のまちづくりイベントでボランティア活動していた。「混浴温泉世界」後の事務局スタッフから、アートと地域の関係を重視するという説明を聞いて、ミッションを共有しながら活動できると感じ、関わろうと思った。
・スタッフから紹介されて。

■問２．ボランティア・スタッフとして関わった感想をお聞かせください。
・とても刺激的でした。芸術畑の人でもなく、バイリンガルでもない私ですが、「じゃあどうやったらこの人たちの役に立つ？」と悩まずにはいられませんでした。それくらい、BEPPU PROJECT やアーティストの方々の思いというのは熱いです。自分の至らない部分にも沢山気づくことになり、頑張らなきゃと奮い立たせられました。また、実際に住民や観光客の方々とお話をして、毎日別府の町を歩いて、そうするうちに場所の力というのを再認識するようになりました。別府で見られない風景があって、別府でしか食べられないものがあって、だから別府には沢山の人が集まって、別府でしかできないイベントがあるんだなぁと。今では別府のことを「元気のない町」だなんて全然思いません。ただそれは、実際に関わらせて貰った者としての意見ですから、もっと別府のこういった元気な姿を、色んな人に知って貰いたいです。他所の方々には勿論、別府市民の方々にもです。
・お客さんのなかには楽しい方々が多く、そのような方々とお話するのは楽しいものです。
・短い会期にも関わらず展示作品の内容が濃く、またクーポン型チケット「BP」の導入といった進化もあり、非常に良い内容で短期のお手伝いもしやすかったです。
・「BEPPU PROJECT 2010 アート・ダンス・建築・まち」は、小粒ながらも質の高い事業だったと思う。BP という、アートの入場券と飲食店や温泉のクーポン企画があって好感が持てた。また、徒歩で行ける範囲でアートが点在していて、自動的にまち歩き出来る仕掛けもよかった。某映画祭のマネージャーの話によると、当初、来場者が映画を観てそのまま帰るので、町に回遊しない問題がでてしまったという。そこで、現在は、映画祭のプログラムの中にまち歩きの仕掛けを作っているという。地域と密接に関わったアートを行うには、このような手を打っておく必要があると思う。今後の課題は、アートでまちあるきをする楽しさを、広報・宣伝段階からわかりやすく伝えることだろう。アートファンは現代芸術やアーティストで来場するきっかけになるが、それ以外の人には、別の訴求が必要だ。多様性を持った作品の感想があれば、アーティストにとっていい刺激となるに違いない。
・栃木県や大阪など遠くから来た観光客の方と話す機会があり、自分自身のためになった。得たものが多かった。

・別府のまちでこんなことが、行われていることに驚いた。違う世界を知りびっくりした。
・イベント内容がはじめは解らず戸惑ったが、人が集まり楽しそうで、それをみているだけで自分がうれしくなった。
・20 年ぶりにアーケードの通りを歩いた。こんなことがなければ足を運ぶことがなかったのでいいきっかけになった。シャッターの閉まった店も多く町が昔と変わったことを実感した。
・子育てを忘れかけているときに、子どもを預かれるか心配したが、家族で楽しませてもらった。

■問３，今後も関わりたいと思う理由をお聞かせください。
・これからの別府がどうなっていくのかが見てみたいし、その経験は確実に自分自身の糧となっていくと思うので。ただ、BEPPUPROJECT さんばかりでなく、という気持ちはあります。他の団体に関わって初めて見えてくる部分というのもあると思うので。
・進化していく BEPPU PROJECT を近くで見たいから。
・ミッションを共有してボランティア活動できるから。また、スタッフのアートや地域に対する志の高さに加え、変化に対する柔軟性があり、一緒に活動をしたいと思うから。
・家庭の都合が合えば。時間的な条件や状況がうまく合えば。

（４）財政

本事業は、NPO 法人 BEPPU PROJECT と文化庁の共同主催として（文化庁地域文化芸術振興プラン）開催された。文化庁・地域文化芸術振興プランの実施目的は「都道府県が企画する地域の芸術家や芸術文化団体、伝統文化保存団体等を活用した取り組みを支援し、特色ある地域文化の振興など地域の『文化力』の向上とともに、文化芸術活動の活発化により地域経済の活性化を促すこと」である。

事業にかかる経費は概ね補助金によってまかなわれ、チケット収益を得る必要は必ずしもなかったが、「混浴温泉世界」の時に課題として挙がっていた「地域との連携」を実現するためにも、会場周辺の飲食店に協力をあおぎ、クーポン型チケット BP※を発行した。広報活動の一環としても広く声かけを行い、1 BP＝100 円の金券となるクーポンを利用できる加盟店として、15 店舗の参加協力を得た。参加にあたり、広告掲載費およびチケット手数料を徴収した。

※BP は、項目「第３章２－５（３）BP の取り組み」で詳しく述べているので、ここでは詳細を省く。

成果
・「混浴温泉世界」は実行委員会で事業経費を捻出しなければ運営できなかった。本事業では、文化庁が共同主催となり、実行委員会の会員として開催した。事業経費は文化庁の補助金から捻出できたので、「混浴温泉世界」時のように、チケット収益にのみ頼るということはなく、運営は安定して行うことができた。
・１綴りを 500 円で販売した「BP」は、つり銭の準備や計算も単純で、金銭を扱うボランティアへの負担も少なかった。
・BP は手頃な価格である点と、イベント参加以外でも飲食店で利用ができるという点で、概ね好評で、気軽に購入する方が多かった。利用方法を的確に説明することで購入を促し、参加者に町を周遊してもらうための仕掛けとなった。
・会場を別府市中心市街地に限り、BP の加盟店も中心市街地のみとした。全会場をまわる所要時間が２、３時間程度であることから、一般の観光客も気軽に参加できた。
・「混浴温泉世界」では、フェスティバル参加を目的とした来場者が多かったが、町に貼られたポスターやチラシで本事業を偶然知った方の参加も多く、インフォメーションセンター等で案内を受けた一般の観光客や市民も催しを楽しんだ。チケット販売については、イベント参加を目的とする来場者と、偶発的にイベントに参加する来場者の双方に対する告知と販売路の計画が重要であると言えるだろう。

課題

・文化庁・地域文化芸術振興プラン実行委員会の事業で、その入金は完了後だった。運転資金は「混浴温泉世界」時と同様、金融機関からの借入に頼らざるを得ず、当面の運営資金をどのように確保するかは、依然として大きな問題である。文化芸術の催しに加え、飲食店や温泉など、町全体を歩いて楽しむことができるクーポン型チケットが好評だったことから、今後の地域と連携したチケットの導入および会期前のチケット販売営業の強化に期待したい。

・BP の販売について、販売開始が開幕（３月６日）直前の３月１日だったため、事前販売期間が短く（※前売りは未設定)、販売数の把握が難しかった。今後は動向を知るためにも、会期１ヶ月前を目処にチケット販売を開始したい。

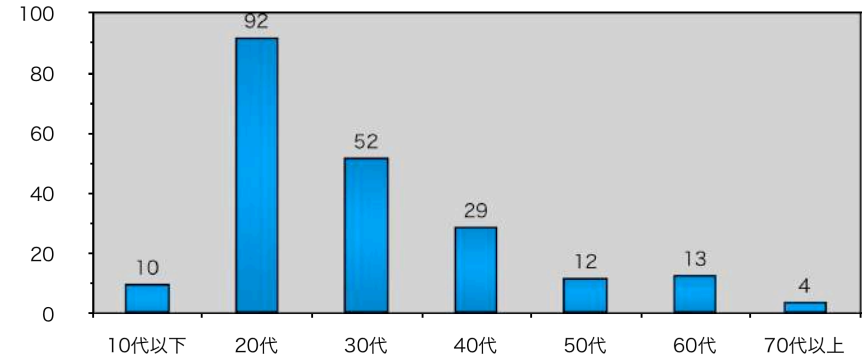
・BP を預けた店舗での売れ行きはほとんどなかった。メディア発表やウェブでの案内、現場での告知媒体作成と掲出依頼をしたものの、取り扱い窓口として知られる機会が少なかったからと思われる。チケットを預かってもらうことが新たな関係性を築くことにつながり、「地域との連携」という意味においては効果があったが、チケット購入のために、それぞれの店舗に観客が訪れることはほとんどなかった。協力店舗でのチケット販売促進を図るための対応案の模索が必要である。

第５章アンケート

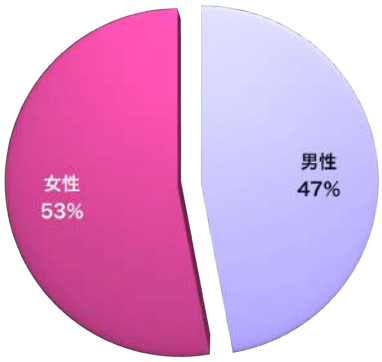
（１）来場者

アート作品展示会場のほか、記念講演会やダンス公演など単発のイベントの際にもアンケートを配布、回答を求めた。アンケート回収総数は 219 件だった。

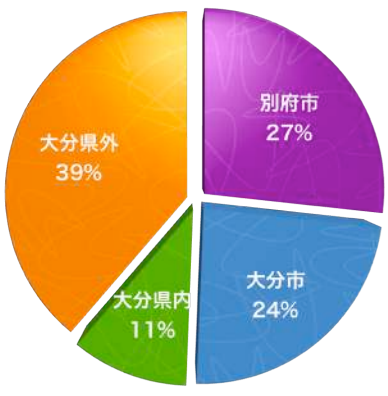
■年齢



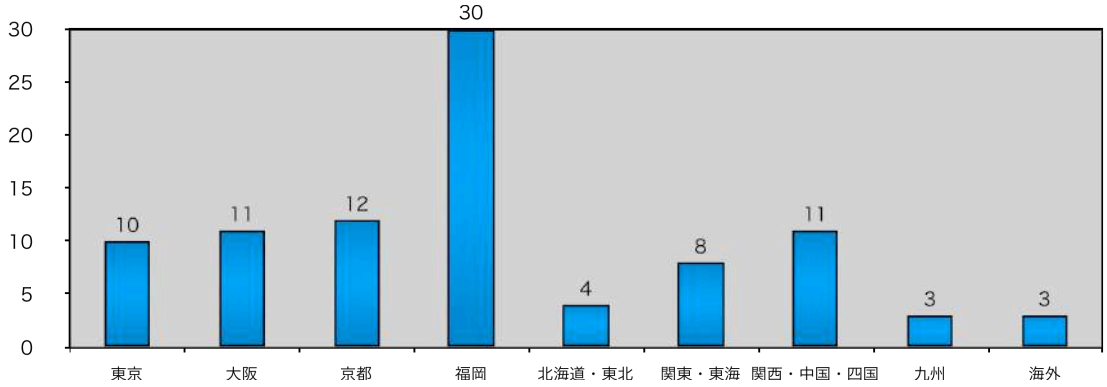
■性別



■地域別



■県外来場者の内訳

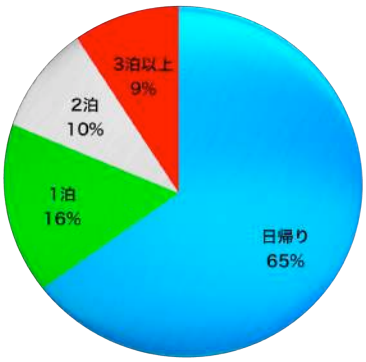


「混浴温泉世界」では別府市内からの来場客は全体の 14%にとどまったが、今回は 27%と、3 割近くを占めている。また、大分市からの来場者も 24%にのぼった。回数を重ね、町で一定期間行なう複合型の現代芸術の催しが、地域に徐々に根ざしつつあると言える。

県外内訳では、福岡の来場者数がいちばん多く、ついで関西（京都と大阪）、東京となった。参加アーティストなど関係者に関西出身もしくは拠点とする者が多いことから、京都や大阪の来場者が多かったと思われる。

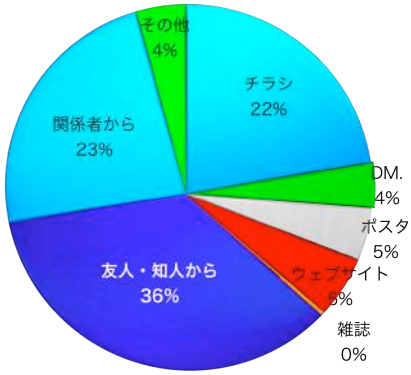
■滞在期間

「混浴温泉世界」時と似たような来場者の傾向が読み取ることができる。つまり、日帰り客と 1 泊が全体の 7 割を占め、また、2 泊以上した来場者が 2 割程度と、長期滞在者が比較的見受けられた。

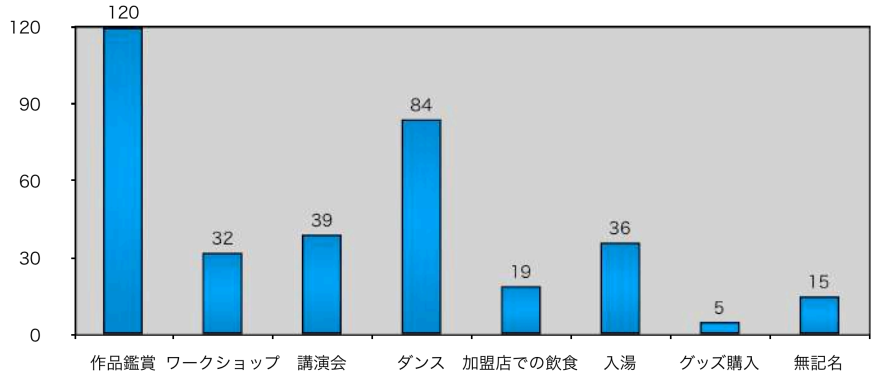


■催しを知った経緯

友人・知人等、「人」を介して知った人が 6 割、チラシや DM、ポスターなど広報印刷媒体が 3 割近くだった。全国的な集客を図った「混浴温泉世界」のように、早い時期にチラシ等を作成し、全国からアートファンを呼ぶ上で広報印刷媒体が有効だったが、大分県内など近隣地域には「人」を介した広報が功を奏すことがわかる。



■BP の利用箇所



■[自由回答]　会場に対する感想・意見

・半日くらいで歩いて回ることができ、会場をまちなかに絞っており、ちょうどよい規模だ。
・こういう機会でないと足を踏み入れない場所に入ることができて新鮮／刺激的だった。
・「混浴温泉世界」より分かりやすくなってはいるものの、それでも地図や案内板が分かりにくい。展示会場に入りづらい雰囲気があった。
・地域の人と接する機会を持った来場者から：「地元の人と話すことができて有意義に時間を過ごせた」「地元の人の優しさがうれしい」

■[自由回答]　中心市街地を歩いての感想

【建物】古い建物と新しい建物が混在していて面白い。古い建物が多く残っていて歩いていて楽しい。
【活気】「シャッター通り」等、閑散としていて寂しいが、以前より少しずつでも活気が戻ってきている／人通りが多いようで、よかった。
【営業曜日】日曜日が休みの店舗が多い。
【店舗】実は「宝の山」ですね／小さな店が残っていて楽しい／まちの人が優しく、無駄になにか買いそうになる。

■[自由回答]　BP のシステムについて

・催しと商店街／温泉のコラボレーションのシステムは面白い。特別感があって換えるだけで楽しい。発展の可能性は大きいが、少し難しく、分かりづらい。「100 円チケット」などストレートな表現で、レトロに見せるのも良いのでは。
・使える店舗が増え、町中あげて催しに参加している雰囲気になると良い。

■[自由回答]　今後行なって欲しい催しなど

・「混浴温泉世界」時に制作された作品の継続展示／商店街での活動／別府を盛り上げる活動の長期継続／東京におけるダイジェスト版のプレゼンテーション／地場製造業との連携
・旧 A 級別府劇場：演劇／芝居／落語／ファッションショー／ストリップ

（2）地域の方々とアート従事者

会場エリアとなった別府市中心市街地で活動している地域の方々およびアートに従事している方々（※大分で活動していない方が多い）に向け、アンケート調査を行った。「混浴温泉世界」および本事業に来場したことがある方が対象で、自由記述とした。回収総数は 7 件、内訳は地域の方々が 3 件、アート従事者が 4 件だった。アート従事者に関しては、専門的な立場からの回答を得たく、アートに関する特別な質問事項を設定した。

■催しに対する感想

・ 商店街に人通りが増えた。マップや BP を利用してクーポンのお店にお客様が行ったりと動きがあったからです。コミュニティとしてお年寄りが楽しめる場や家族で楽しめる竹工房など素敵でした。
・ 昨年に続いての BEPPU PROJECT の活動が継続している様が見えてくる。

■BP に対する感想

・オマケがつくのでお得。
・喫茶店で使用させていただきました。すばらしい取り組みだと思いました。アートに直接かかわらない人（商店街の方とか）もちゃんと巻き込んでいるな、と思いました。使い切れなかったのが残念です。どなたかダンサーかお手伝いの人にあげて帰ろうかな、と思いましたがバタバタで渡せませんでした。使い切れなかったＢＰ募金箱（？）とかあるといいかも！？

・少しわかりにくいシステムだが、それなりに楽しめるチケットだと感じた。
・もっと広く、いろいろなところで使用できる日を楽しみにしています。また、BRPPU PROJECT があるときには通年で使えるようになると、残りは次回‥というように、通う楽しみが生まれていいかな、と。余談ですが、あまり勝手が分からずに、私は勧められるままに最初は 500 円分購入しました。‥‥が、昼食を食べると当然足りないので現金で払いました。最初、お客様は使い方がよくわからないので、例えばスタート時に、食事＋温泉 1〜2 回＋プログラム鑑賞代と考えて、1,000 円くらいを積極的にお勧めしてもいいのでは？ 地域通貨としては、結構使いやすかったので、購入しても損はなく、お客様が自然と地元広報してくださるきっかけになると思います。
・面白いし、話題になった。地域通貨発行経験のある別府の良さだと思う。
・大変すばらしい。商店街の方々に当事者意識を持っていただく上で優れた試みである。

■「混浴温泉世界」と比べての感想
・今年は清島アパートがさびしかった。
・地域に根付いていく、というのはこういうことか…としみじみ思いました。
・規模や予算は比較にならないが、狭いエリアなりに場所への関与性もうかがえ楽しかった。
・「混浴温泉世界」のときには見逃していただけかもしれませんが、今回は比較的コンパクトだったので一つ一つをゆっくりと回ることもでき、プロジェクトの中に地元の方の顔が見えてきたり、BP 発行によって、お店の方とお客様の間で会話が生まれたりしてよかったです。地域の「人」の魅力が伝わってくるアートプロジェクトとしての期待値も高まりました。今後も楽しみにしています！
・「混浴温泉世界」で生まれた課題を一度総括するプログラムという点では、非常にまとまっていた。
・ 場所の広がりがコンパクト化したためにか濃密感が出た点はよかった。幅広く市中全体とのバランスをどうとるのかが課題か。アートの内容は今回のほうが親しめる。それは、アートのあり方の時代の変遷を反映しているから。

■自由記述欄
・地元住民をもっと動かすシステムを様々な団体と協力して作れたら面白いと思います。
・どしどし継続してほしい。商店街をどんどん利用してください。
・別府と福岡、とか周辺の街と連携したプロジェクトも出来るといいですね。
・今後ともぜひ続けてください。
・ぜひとも、BP を野田商店で使えるようにしてください!! 野田商店の太巻きの美味しさを、東京で口コミ広報してますので。
・もう少し長い期間開催してほしかった。今回の主な対象来場者が「別府／大分」なんだと感じた。
・今後は周囲の目が厳しくなることが考えられるため、いろいろな角度からの検討が必要では。過去の実績にこだわらずに前に進めるか期待しています。
・アートと都市の双方を結び合って振興している手法が見事。特に拠点開発が重要で、後はヒエラルキーを越えた地域の人々の連携がフラットにさらに多様になるといい。大いに期待している。

◎アート従事者への質問項目
■大きく【美術】【ダンス】【建築】という 3 つの部門に分け、実施しました。今後も、異なるジャンルを互いに影響させた企画をつくりたく考えています。これについてご意見・ご感想、ご提案をお聞かせください。
・美術なら美術ファンの集まり、ダンスならダンスファンの集まり…となりがちな現状を何とか打破できないものかと日々思っています。ので、ジャンルを超えた企画、というのを意識して実施していらっしゃるのは本当にすばらしいと思います。
・残念ながら美術部門のみしか見ておりませんが、相互関連性を持たせようとする試みは評価できるとおもいます。閉塞した状況を打開するには 1 つのジャンルだけでは困難だと思います。

・目次としては「部門分け」は役に立つかもしれませんが、基本的には、必要ないのではないでしょうか。特に3つしか部門がないと、反って偏った印象を与えてしまうのではないかと。もし部門分けするならば、いっそ、「音楽」「演劇」「映像」「食」「観光」「温泉」「伝統」とか?? もっといろいろと別府情報が欲しくなってしまいます。
・日本ではあまりない「ジャンルなんていらない」と思わせられるものを見たい。
・ジャンルを超えて流動しているのが現在のアート文化であってみれば、とりあえず複数のジャンルを取り上げることは不可欠。さらに、幅広いジャンルを入れ、その流動化をもっと促進されたい。

■次の各項目について、ご意見・ご感想、ご提案がございましたらお聞かせください。

□【美術部門】　アーティストの人数、人選、会場など

・「混浴温泉世界」よりも若い作家が多く、また「わくわく混浴アパートメント」(「混浴温泉世界」の国内で活動する作家による滞在作品制作と展示プログラム）での実績を勘案した人選がなされており、若手作家へのインセンティブが働くことになると思われる。
・コンパクトに歩いて回ることができ、適度だったと思います。地図も分かりやすく、散策としても気持ちよかったです。また、いわゆる「展示」だけでなく、2012年に向けて取り組んでいるアーティストの過程を見られたことも貴重でした。またその取り組みの中に、地元の方の顔が見えてくるものもあり、今後の展開が楽しみになりました。今までのBEPPU PROJECTさんの丁寧な活動の賜物かと。
・時期や予算を考えると妥当かと思われるが、人数を少なくしても良かったのでは。
・作品は見ごたえがあったか、アーティストの人選があっていたか考える余地がある。
・整備されたplatform内での展示は無難な印象で、物足りなさを感じた。
・美術はとくに鑑賞者に自由が与えられている点から、会場監視スタッフからの一方的な説明を再考願いたい。

□【ダンス部門】　アーティストの人数、人選、会場など

・山田別荘とストリップ劇場が特によかったです。“場”は“人”が集まってこそ活きる、ということを改めて実感しました。
・豊富なバリエーションでそれぞれボリュームもあり見応えは充分でした。‥‥が、会場だけとってもどこも魅力的な場所で、且つダンスも様々なので、集中して1日に観続けるのは結構ハードでした。私は2日しか滞在できなかったので、合間に美術部門の鑑賞や温泉も盛り込んで、かなり貪欲に観て回りましたが、温泉地のゆったりした楽しみ方をもう少し堪能したかった感があります。もう少しダンスフェスティバル期間を長めに設定し、「別府」を満喫しつつ、緩やかにプログラムを楽しめるようにされてはいかがでしょう？ その実現のためには、ダンス制作、ダンスのクリエイションに関わる地元スタッフがもっと前に出てくる必要があるのではないかと思いました。
・BEPPU PROJECTが何をしたのか分かりづらいのが今後の課題ではないか。

□【建築部門】／ジュード・ケリー氏記念講演会、九州アートネットワーク車座会議／ツアー

・ 印象に残る「建築」だった。別府の街という点からも重要な要素になると思われる。
・ ケリーさんの講演は聴きにゆきたかったです。そういう印象を与えたことは大きい。
・「九州アートネットワーク車座会議」は今後の展開の中で、大切な一歩だったのではないか。今後2、3年の進路を示唆するつながりが期待される。
・ツアーは「混浴温泉世界」時よりも良くなったように思う。
・すみません、足を運べませんでした。行きたい！というものはあったのですが、年度末はいろいろ重なってしまいますね…。

（3）行政（別府市）

本事業は、まちなかで展開されるため、別府市のさまざまな部署に関わっていただくこととなった。関わりの深かった部署を中心に、本事業およびBEPPU PROJECTに関するアンケート調査を実施した。回収総数は27件

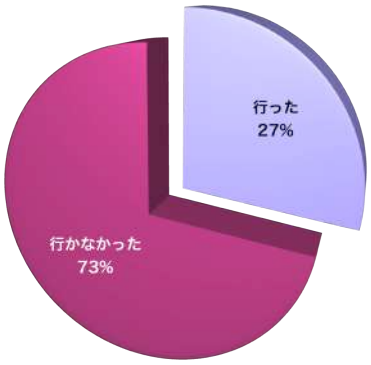
であった。

■BEPPU PROJECT が主催するアートイベント（準備段階を含む）についてのご意見、ご提案等をお聞かせ願います。

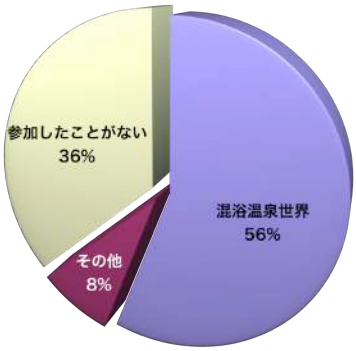
・年度末やイベントの多い時期を避けてはどうか。
・会場によっては、前を通っても何をやっているのか分かりづらく入りにくい。もっと気軽に入れる工夫を望む。
・準備期間も短い中、アーティストの熱い魂が伝わったイベントであったと思う。今後も地道にこのようなイベントを継続してもらいたい。
・早い時期での会場決定、内容決定が必要。
・事前告知を徹底してほしい。
・もっともっと活動がじんわりと町に溶け込んでいったら良い。
・いろんなことは便利になって、簡単で分かりやすいです。とてもよかった。

■参加された催しはありますか？（複数回答可）

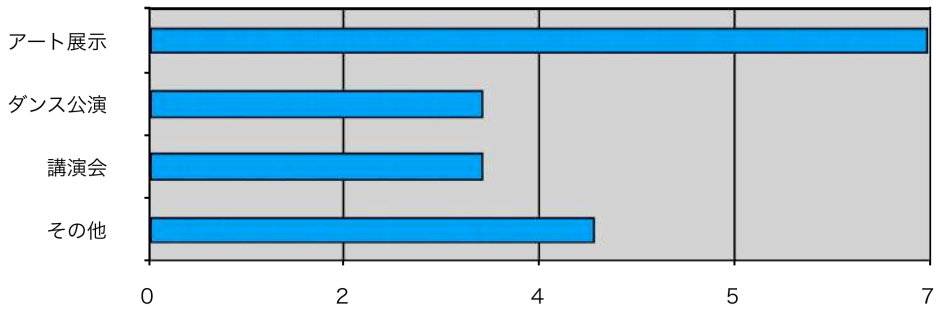
□BEPPU PROJECT 2010 について



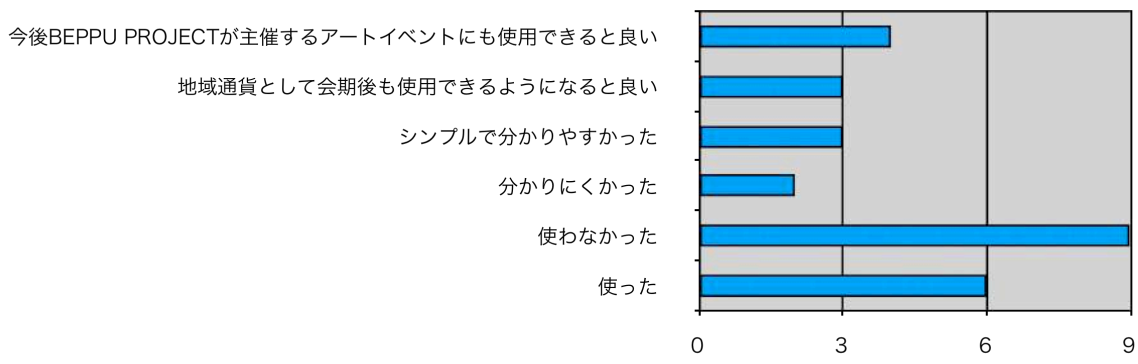
□これまでの BEPPU PROJECT の企画について



□「行った」と応えた内訳



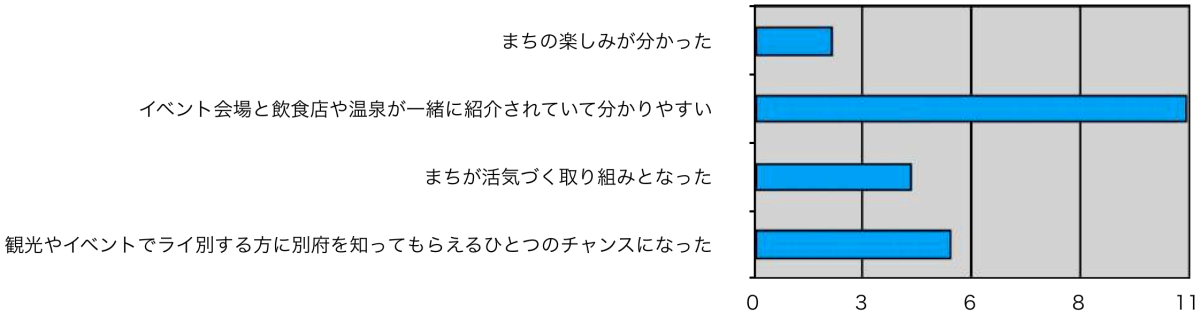
■クーポン型チケット BP（ベップポイント）について（複数回答可）



■「分かりにくかった」とお応えされた方、どんなところが分かりにくいかをお書きください。

・なんとなく複雑なイメージがあるので、もっとシンプルな打ち出しを。
・文字が小さすぎて、一般の方、高齢者には辛いのでは。
・買える場所がはっきり把握できなかった。
・BP 売っています、とか、分かりやすいともっと身近に使えた。

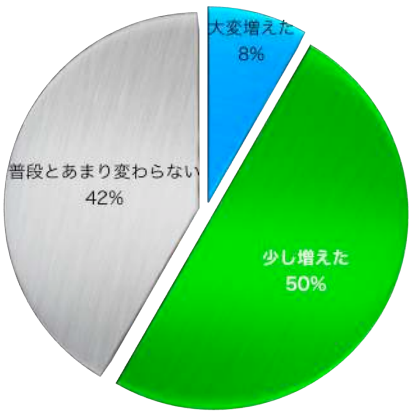
■BEPPU PROJECT のイベント＆グルメマップについて（複数回答可）



□そのほか

・詳細にすると、かえって分かりにくくなる。イベントの内容に沿ったシンプルなものでいいと思う。
　他にマップはいくらでもある。
・幅を少しずつ広げていくと楽しそう。（例：裏メニューとか）

■BEPPU PROJECT 2010 開催期間中の来訪者数の増減について



■今後行なってほしいイベントや BEPPU PROJECT、また、催しとまちを、よりリンクさせるための手段などのご意見ご感想をお書きください。

・情報発信の方法を考えれば、もっと集客は望めると思うので、協力できることはしていきたい。もっと親子や年配の方々が参加したくなるものを。
・たとえばオンパクのガイドブックのような、一目で内容等が分かるリーフレットやチラシを作成して配布した方が、容易に参加しやすく、参加者がより増えるのではないか。
・今回のイベントは、多少なりとも地域を巻き込み、これまでの各主催イベントの反省点を一つ一つクリアしていることが窺えたものであったと思う。今後も地元の理解を深め、認知度を高めて次のステップへと前進してもらいたい。また、財政的な基盤を築くためにも、一定の収益に繋がるような事業手法も検討されたい。
・もう少し BP を使えるお店（グルメ）が増えれば良いと思います。
・platform で現代アートの常設展（1 ヶ月くらいで入れ替え）の実施。
・もっと店舗、商店街を巻き込むイベントを。観覧から参加型へ。

・まちなか音楽会
・まちなかマラソン（懸賞付）
・まちなか展覧会（現代芸術）
・街歩きのように定期的に、街の中にあらわれているものをガイドさんに案内してもらいたい。（他の団体のように定期的にできるのでは？）
・定期的なイベントをしてもらいたい。platform 等利用して、子どものワークショップ、学生への勉強会、市民とアーティストの出会い、フィルム、詩、音楽、もっと多岐の分野に渡り、文化芸術創造都市として、人が訪れた時、別府で何か行なっている、ということを分かってもらえるようにシステムをつくってもらいたい。Lonely Planet 等で紹介されたりするくらい。観光窓口に常に情報があって、市民、観光客が参加できるようにできたら良い。
・チケットは簡単で取りやすい、が、いちばん良いと思います。

第6章　開催による評価

（1）成果

1．地域性を活かした芸術振興

会場を全て徒歩圏内に設定し、中心市街地の空き店舗や空き地、裏路地での美術作品の展示や、ダンス公演の会場とすることで、鑑賞者のまちなかの回遊を促進する「まちなかアートフェスティバル」として実施した。これがきっかけで別府に初めて足を運んだ層が、アートと町の双方を楽しんだことが会期中に募ったアンケートの回答からも伺われた。

この傾向は「混浴温泉世界」時にも見ることができた。このことから「混浴温泉世界」や本事業のような催しが、とくに 20〜30 代の層の別府の新規来訪者の開拓に効果的であることが言えるだろう。また、これには今回試験的に導入したクーポン型チケット「BP」が大きな役割を果たした。さらに、今回は地域からの参加者の割合が「混浴温泉世界」の時よりも増えていることから、前回の経験を受け、地域に根ざした芸術振興事業として歩を進めたと言えるだろう。

また、本事業は、別府が観光地であり湯治場であることを下敷きに、アーティストが町に滞在するということを柱のひとつとしていた。この試みによって、町や地域住民と、国内外の多様なアーティストとの交流の場が日常的に生まれた。そのなかで町の歴史や背景、個人の記憶などが反映された、この町独自の作品が生み出され、広く発信できたことは大きな成果のひとつと言える。

さらに、もうひとつの柱であった市民が関わることで作品がうまれるという試みでは、年代を問わず地域内外から多くの参加者が集まり、参加者の反応からも、アートと市民の、より近い関係性を生み出すことができたことが伺われた。

2．中心市街地の空洞化に対する、アートによるまちなか居住研究

別府市内の古いアパートや、空き家や空き店舗をリノベーションしたスペースをはじめ、国内外のアーティストが、会期前から実際に中心市街地に住み、制作や展示、ワークショップを開催した。これは、アートやアーティスト自身について地域からの理解を深め、芸術普及の促進に非常に大きな効果があったと言える。また、アーティストにとっても、サイトスペシフィックな作品を制作する上で、地域や展示空間についてより深く知る事につながり、さらに制作の協力を募るためにも有効であった。

3．地域の地場産業や伝統産業との協働による新たな集客交流事業

クーポン型チケット「BP」を導入し、取扱店や加盟店を募ったことで、地域の旅館組合や観光業、温泉施設や飲食店などとの連携がとれ、芸術を含め、地域そのものを商品とした滞在プログラムの創出を図った。また、地

域の NPO と協働したことで、住民やアート関係者以外への声かけ窓口を増やすことができた。また、建築家と住民が共に地域のデザインを考える建築プログラムの展開や、伝統的なものと現代的なものが融合を目指す地域の若手工芸家による作品の展示では、地域が本来もつブランドの再発見の機会となり、今後の向上と外部への発信へと繋がるものとなるだろう。

4．これからの地域を担う、コンシェルジェ人材の育成

各会場を案内するコーディネーターは、主にボランティア・スタッフであったが、その中でもコアとなるボランティア・リーダーを数名設けたことで、来場客のニーズに応えるべく、自発的に作品や会場、地域の歴史や温泉、飲食店などについて学び、他のスタッフと共有する姿勢が見られた。

今後は、作品についてはもちろん、地域の歴史や温泉施設や温泉の効能など、より深い知識を持つ、町のコンシェルジェ的人材の育成を目指したい。そのためには、別府市内の観光系 NPO との協働が不可欠である。

5．アートと地域双方を楽しむクーポン型地域通貨の開発

本事業では、アート観賞やダンス公演などへの参加や、地域の飲食店や温泉施設などでも活用できる、イベント時における地域通貨として、クーポン型チケット「BP」を開発した。先にも述べてきたように、地域内外に様々な効果をもたらしたこのシステムを今後応用し、より町を楽しめる取り組みとしての社会実験を進めていきたい。

6．別府市独自の文化による再生事業を全国に発信

会期に先駆けて、ここ５年間の別府での文化・芸術の振興事業の取り組みを記録した出版物を刊行した。会期中に会場で販売したところ、購入後、本を参照しながらリノベーション物件を見学したり、町を散策したりする来場客の姿も見受けられた。この本は現在全国の書店やインターネット書店でも販売されている。また、購入後に寄せられた感想には、まちづくりやアート NPO 団体などからは「今後の活動の参考にしたい」という内容が多かった。今後、別府の地域性を活かしたスタイルをより深化させ、地域再生のモデルケースとなるべく活動を続け、それを広く発信することで、顧客やリピーターの増加へと繋げたい。

7．マーケット開拓のための動向調査

会期中、来場者を対象にアンケートを募り、総来場者数に対して約２割にあたる枚数を回収した。特に今回はクーポン型チケット「BP」に関する意見が多く寄せられていた。「BP」は実際に使用してみた人からは概ね好評であり、アートやまちづくりの関係者からも、このシステムの今後の発展による地域における文化振興の新しい手法の構築を期待する声が多く寄せられた。

8．従来のターゲット層以外へのより広い芸術・文化の発信、普及

今回のアート部門のプロジェクトには、地域の子どもたちや高齢者を多く巻き込む作品が多く見受けられた。これはこれまで主なターゲットとしてきた 20 代、30 代に加え、新たなファン層を生み、３世代に渡り楽しめる、別府ならではのアートのスタイルの構築の第一歩となる試みだった。今後もこの手法を深化させ、アートを一部のファン層のみのものとしてではなく、地域ぐるみでの取り組みとして発信していきたい。

（2）今後の課題

1．アーティストの新規域内居住

イベント後の新規域内居住の目標を 3 名としていた。今のところ、2 名の移住希望（参加者、ボランティア）の話が出ており、また、今後の滞在制作や別府公演を希望する声が上がっている。

このことから、長期滞在を見越しての表現や制作の場の候補として、別府を検討するアーティストが増えているということは明言できるだろう。

２．コンシェルジェ人材育成のためのプログラム開発

当初８名の育成を目標として定めていた地域コンシェルジェは、会期中 15 名を送出することができた。これは、当初ボランティアのリーダーとして事務局からのレクチャーを受けたスタッフに加え、会期中アーティストや地域住民との交流により、自主的に作品の生まれた背景や地域の歴史、会場周辺の施設について学習し、来場客への案内や解説ができるように成長したスタッフも含む数字である。

ボランティア登録者 68 名のうち、３日間以上参加したボランティア・スタッフは 24 名であった。今後こうした意欲的なボランティア・スタッフを対象に、地域コンシェルジュ育成のためのプログラムを開催していきたい。

アートと地域を融合させ、双方からの楽しみ方を提案する事業を展開し、内外からの集客を図る上で、今後ますますアートと地域、どちらにも精通したスタッフの育成が望まれる。特に旅行者や県外からの来場客には、限られた時間内でアートと地域を紹介する必要がある。

そこで来場客のニーズに的確に応え、短時間で満足してもらえる提案のできるスタッフを育成するためのプログラムや教材を地域の活動団体や行政との共同で開発し、さらには認定制度を設けるなど、アートや地域について学ぶ環境を整備したい。

３．クーポン型地域通貨の発展、流通促進

今事業でさまざまな効果をもたらしたクーポン型チケットを、今後さらに発展、流通させることが今後の課題のひとつとしてあげられる。利用者にとっては無駄がなく、イベントとその間の時間の過ごし方の提案としても有効であった。地域にとっては目に見える形での還元であり、さらに事業内容の周知にも一役買った。今後は利用できる機会や店舗、業種を増やし、さらなる認知度と利便性の向上を図りたい。

４．地域のブランド力の向上

県外からの来場客に地域を魅力あるものとして発信するためには、まず地域住民がその魅力を熟知していることが不可欠である。そのため、今後もさまざまなプログラムと伝統工芸や地域資源を結びつけ、そもそも地域がもっているブランドの再発見に繋げたい。そしてそれらを市民が自ら大事にしていくことで、次代が地域を誇り、外部へ発信していけるような環境を作りたい。

５．内外のアーティスト同士が刺激しあえる場づくり

会期中、協力事業として、国内の若手アーティスト 150 名が参加した「わくわく別府タワー」が同時開催された。これは「混浴温泉世界」で好評を博した「わくわく混浴アパートメント」の発展形で、観光地別府のシンボルのひとつである別府タワーの中で、若手アーティストが作品を発表し、会期中毎日パフォーマンスイベントを開催するというものであった。このような自主事業が興ったこと自体、これまでの取り組みの成果と評価できる。この事業は内外の有名無名のアーティストが交流し、刺激しあえる場づくりとなり、フェスティバル本編に加え、新たな文化創出と発信のための重要な事業となった。この取り組みは今後も当団体の事業と連携して継続していけるよう、協力していきたい。

第７章　総括：今後に向けて

BEPPU PROJECT 2010 は、全国的に注目された別府現代芸術フェスティバル 2009「混浴温泉世界」閉幕後、次回の「混浴温泉世界」を見据えた上で、別府市で継続して文化事業を開催することと、「混浴温泉世界」で挙った反省点や課題の解決策を試みることを大きな目的に計画された。そのため作品は、「混浴温泉世界」のように異世界の創出を試みるのではなく、日常のさまざまな場面にアートとの出会いを設けた。市民との関わりによって生まれた作品群は、多くの市民にとって親しみ深いものとなった。

「混浴温泉世界」以降の文化事業としての観点から特筆すべき変化に、九州・大分でのメディア掲載件数と、大分県内、とりわけ別府市内からの参加者の増加が挙げられる。九州・大分でのメディア掲載件数は、２週間の会期にも関わらず約 90 件にのぼり、掲載内容からも今回の事業と今後の別府市における文化事業の展開への関心と期待の高さが伺われた。

また、別府市からの来場者数は 27%、大分市からの来場者は 24%と、地域からの参加者の割合は「混浴温泉世界」開催時に比べて高まった。これは、回を重ねたことで地域に根ざしつつある兆しであり、人を介した広報活動に力を注いだ成果とも言えるだろう。商店街や老人会、自治会、PTA などと連携をとり、教育機関や行政からの信頼を厚くするため、対面での広報を心がけ、密に連絡や声かけを行った。これは「混浴温泉世界」開催時には実現できなかったことのひとつであり、課題として挙げられていた地域広報の強化を図る上で非常に有効であったと言える。

さらに、今回試験的に導入したクーポン型チケット「BP」も地域住民への周知と参加増加に一役買った。市営温泉や飲食店など、地域の魅力として発信したい施設に加盟という形での参加を促すことで、中心市街地を巻き込んだアートフェスティバルとしての深化を目指した。この試みは利用者にとっては、別府滞在中の過ごし方を提案するパッケージとしても好評であった。BEPPU PROJECT 2010 は、500 円のクーポン券を買えば全ての展示を見ることができ、余ったチケットを利用し、温泉や飲食を楽しむことができた。さらに、中学生以下は全てのプログラムに無料で参加することができた。これらは「混浴温泉世界」開催時には得られなかった、財政基盤に対する充分なサポートがあったことで実現できた。これにより、チケット販売による収益を地域に還元し、来場者が町を回遊する必然を生み出すことができた。今回の事業は９割近くを国の補助金でまかなったが、今後事業拡大を図り地域にしっかりと根ざしていく事業へと育てていくためには、地方自治体、特に別府市からのサポートが不可欠となるだろう。

本事業では「混浴温泉世界」で制作されたマイケル・リンによる作品２点も公開した。別府国際観光港に展示されている壁画は、中学校の美術の教科書への掲載が予定され、さらに、platform04 に展示されているふすま絵は、「るるぶ」をはじめ観光情報誌にも多く掲載されている。今後ますます全国的な話題となることが予想されるこれらの作品は、文化事業での交流人口の増加を実現した直島（香川県）や越後妻有アートトリエンナーレ（新潟県）のように、別府を訪れる動機のひとつとなり、新たな観光資源となることが期待される。本事業ではワークショップなど、参加型の作品が主要であったが、このような経験の蓄積が、文化に対する市民の高い意識を醸成し、地域の将来を担う次世代の育成へとつながっていくだろう。そして、今後も市民から愛され、観光資源ともなり得る質の高い作品が別府で生まれるよう、また、既にある資源を守り、維持するよう提案を投げかけていくことが BEPPU PROJECT の役割ともなるだろう。

2009 年の文化庁長官表彰（創造都市部門）を受賞した別府市は、今後ますます大きな注目を集めるのは間違いない。そのためにも、別府市として文化芸術による地域振興の方向性を指し示し、BEPPU PROJECT をはじめ、市内の多くの NPO などによる民間の活力との協働、そして、人的な財産をいかにサポートしていくのかが、今後の活性化を考える上で重要な課題である。

以上述べてきたように、別府市において文化・芸術振興事業をきっかけに、地域の魅力を掘り起こし発信することが交流人口の増加や多様化につながり、文化面はもちろんのこと、経済面からもこの町を豊かにすることが可能と言えるだろう。その可能性を探り、持続可能なシステムを構築するためには当面は国や行政からのサポートと、継続的な地域住民が文化・芸術を享受する機会の提供は不可欠である。

そして、これを実現したとき、別府市は従来の観光地としてのイメージに加え、文化創造都市としての新たな魅力を造成し、国内有数の事例として全国に広く認知されていくだろう。